

## 7. 周辺地域動態



## 7. 周辺地域動態

### 7.1 進め方

#### 7.1.1 整理方針

周辺地域動態は、大きく2つの流れで整理する。一つは、地域との関わりという点で、地域社会情勢の変遷を整理するとともに、地域連携のための取り組みを紹介する。もう一つの流れとして、周辺施設や湖の利用状況を把握する。

#### 7.1.2 整理手順

整理方針のとおり大きく2つの流れにより行い、とりまとめることとする。

作業の手順は図 7.1-1 に示すとおりである。

##### (1) 周辺地域の概況

周辺地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等の立地特性等の視点から周辺地域の概況を把握する。

##### (2) 事業と地域社会情勢の変遷

周辺地域の社会情勢、計画等について事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理する。これらのまとめにより、周辺地域の地域特性や近年の動向を把握する。

##### (3) 地域連携のための取り組み

管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度の管理者と地域の交流事項等について整理する。

##### (4) 周辺施設や湖の利用状況

湖の周辺施設について紹介し、施設入り込み数、イベント開催状況等の利用状況を整理する。

##### (5) まとめ

以上より、地域と事業の関わり、周辺施設等の利用状況をまとめる。

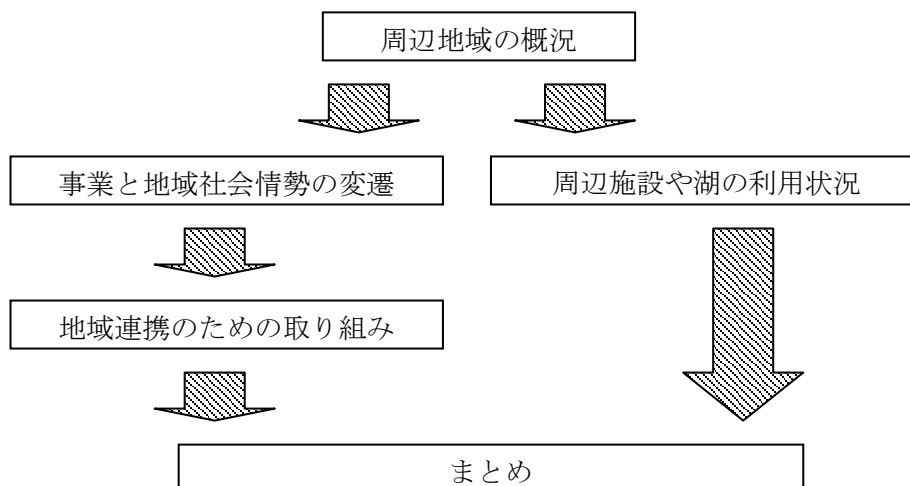


図 7.1-1 検討手順

#### 7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

湖周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.6 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 周辺地域の概況

### 7.2.1 周辺地域の概要

琵琶湖を囲む滋賀県は、図 7.2-1 に示すとおり伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれた盆地である。中央に滋賀県全面積の約6分の1を占める日本一の湖、琵琶湖をかかえ、周囲の山々から流れ出る多くの川が琵琶湖に注いでいる。

#### (1) 流域の概況

2003年(平成15年)まで8市41町1村であった滋賀県は、2004年(平成16年)10月1日の市町村合併により、2町の合併で野洲市、湖南省、5町の合併で甲賀市が誕生し、近年まで合併特例法の下で市町村合併が進み、現在では13市6町の計19市町となっており、新たなまちづくりの取組みが始まっている。琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積を表7.2-1に示す。

表 7.2-1 琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積

市町名	旧市町村名		市町名	旧市町村名		
	旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )		旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )	
琵琶湖		669.26	高島市	高島郡マキノ町	693.05	
大津市	大津市	464.51		高島郡今津町		
	滋賀郡志賀町			高島郡朽木村		
彦根市	彦根市	196.87		高島郡安曇川町		
長浜市	長浜市	681.02		高島郡高島町		
	東浅井郡びわ町		東近江市	高島郡新旭町		
	東浅井郡浅井町			八日市市		
	東浅井郡虎姫町			神崎郡永源寺町		
	東浅井郡湖北町			神崎郡五個荘町		
	伊香郡高月町			愛知郡愛東町		
	伊香郡木之本町			愛知郡湖東町		
	伊香郡余呉町			蒲生郡蒲生町		
	伊香郡西浅井町	681.02		神崎郡能登川町	388.37	
近江八幡市	旧近江八幡市	177.45	米原市	坂田郡米原町	250.39	
	蒲生郡安土町			坂田郡山東町		
草津市	草津市	67.82		坂田郡伊吹町		
守山市	守山市	55.74		坂田郡近江町		
栗東市	栗東市	52.69	蒲生郡			
甲賀市	甲賀郡水口町	481.62	日野町	蒲生郡日野町	117.60	
	甲賀郡土山町			竜王町	蒲生郡竜王町	44.55
	甲賀郡甲賀町			愛知郡		
	甲賀郡甲南町			愛荘町	愛知郡秦荘町	37.97
	甲賀郡信楽町				愛知郡愛知川町	
野洲市	野洲郡中主町	80.14	犬上郡			
	野洲郡野洲町			豊郷町	犬上郡豊郷町	7.80
湖南省	甲賀郡石部町	70.40	甲良町	犬上郡甲良町	13.63	
	甲賀郡甲西町			多賀町	犬上郡多賀町	135.77

出典：文献リスト No. 7-1



市町村合併：滋賀県 HP「市町村合併」参照

- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧野洲町、旧中主町が合併し、「野洲市」になった。
- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧水口町、旧土山町、旧甲賀町、旧甲南町、旧信楽町が合併し、「甲賀市」になった。
- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧石部町、旧甲西町が合併し、「湖南町」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)1月1日に旧高島郡(マキノ町、今津町、安曇川町、高島町、新旭町、朽木村)が合併し、「高島市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)2月11日に旧八日市市、旧神崎郡(永源寺町、五個荘町)、旧愛知郡(愛東町、湖東町)が合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)2月14日に旧坂田郡(米原町、山東町、伊吹町)が合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)10月1日に旧米原市、旧坂田郡近江町が合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)1月1日に旧東近江市、旧蒲生郡蒲生町、旧神崎郡能登川町が合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)2月13日に旧長浜市、旧東浅井郡浅井町、旧東浅井郡びわ町と合併し、「長浜市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)2月13日に旧愛知郡(泰荘町、愛知川町)が合併し、「愛荘町」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)3月20日に旧大津市、旧滋賀郡志賀町が合併し、「大津市」になった。
- ✓ 2008年(平成22年)1月1日に旧長浜市、旧東浅井郡(虎姫町、湖北町)が合併し、「長浜市」となった。
- ✓ 2008年(平成22年)3月21日に旧近江八幡市、旧蒲生郡安土町が合併し、「近江八幡市」となった。

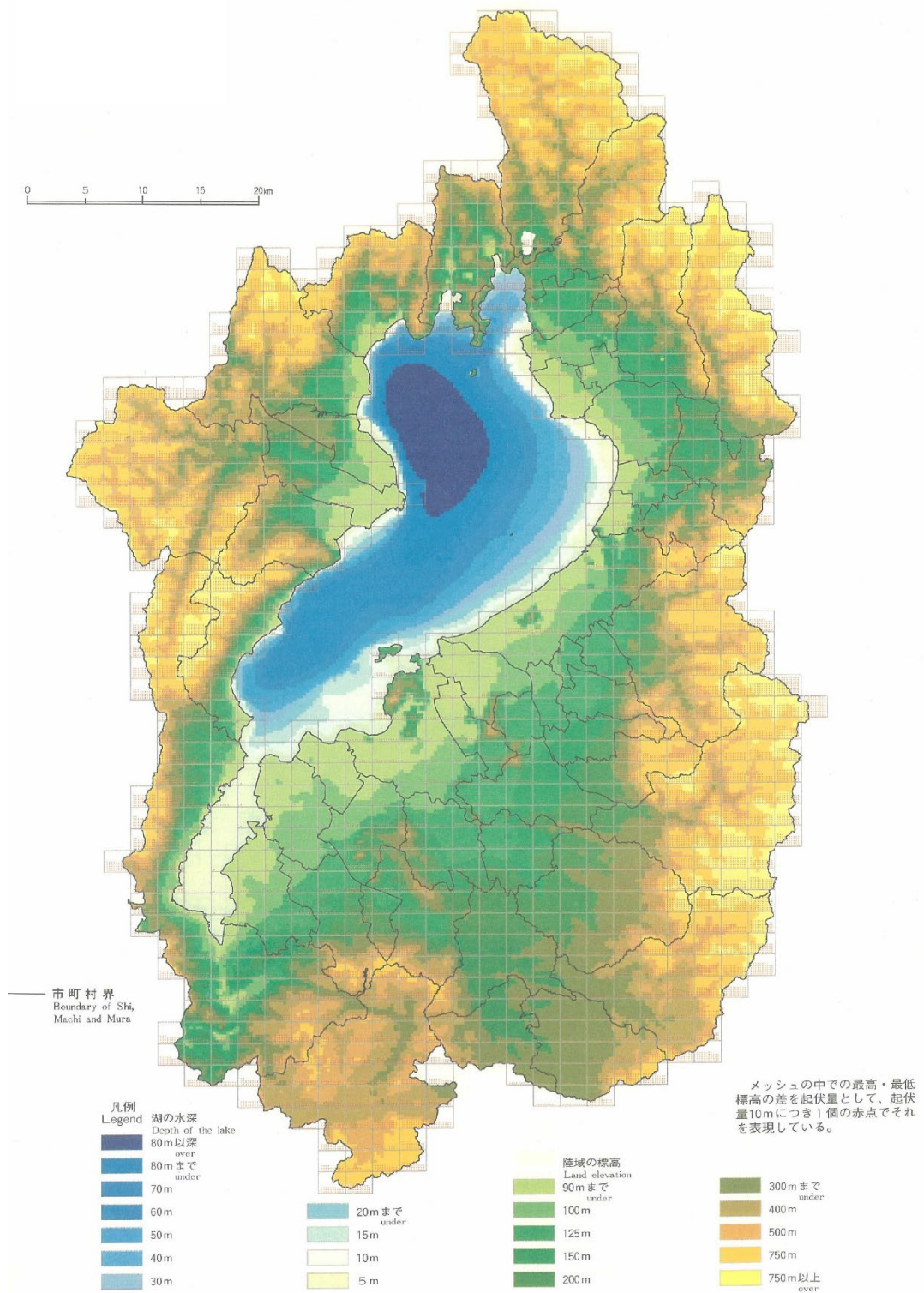


図 7.2-1 琵琶湖流域の地形図

注) 1985年(昭和60年)当時の市町村界であり現在の市町村界とは異なる。

出典: 文献リスト No. 7-2

## (2) 人口・世帯数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における人口・世帯数の推移を表 7.2-2、図 7.2-2 に示す。

滋賀県内の人口は、1950年(昭和25年)頃から1960年(昭和35年)代後半頃までの10年間は85万人前後に推移していたが、その後、2000年(平成12年)頃まで急激な増加を続け、2000年(平成12年)に約134万人となり、その後微増傾向となり2014年(平成26年)以降は、わずかに減少傾向が見られる。2022年(令和4年)時点で約141万人となっている。滋賀県は琵琶湖周辺流域に相当することから、人口のピークであった2013年(平成25年)までの53年間で琵琶湖流域の人口が約57万人(約1.7倍)増加したと言える。

表 7.2-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

	明治23年	明治33年	明治43年	大正4年	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和22年	昭和25年	昭和30年
世帯数(世帯)	134,861	131,054	131,801	133,990	143,426	144,662	147,962	151,132	149,135	182,730	178,689	177,482
総人口(人)	677,500	701,786	693,018	712,076	651,050	662,412	691,631	711,436	703,679	858,367	861,180	853,734
	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年*	平成19年*
世帯数(世帯)	183,277	195,831	215,263	250,944	302,635	330,012	362,253	405,349	453,695	495,960	506,434	516,221
総人口(人)	842,695	853,385	889,768	985,621	1,079,898	1,155,844	1,222,411	1,287,005	1,342,832	1,380,361	1,387,110	1,394,809
	平成20年*	平成21年*	平成22年	平成23年*	平成24年*	平成25年*	平成26年*	平成27年	平成28年*	平成29年*	平成30年*	令和元年*
世帯数(世帯)	525,008	530,281	517,748	542,753	548,814	552,482	555,821	558,145	561,173	563,804	568,091	573,946
総人口(人)	1,401,073	1,402,132	1,410,777	1,414,398	1,414,546	1,416,952	1,416,500	1,412,916	1,415,536	1,412,956	1,412,881	1,413,959
	令和2年	令和3年*	令和4年*									
世帯数(世帯)	571,374	595,233	600,078									
総人口(人)	1,413,610	1,410,352	1,409,388									

- 注) 1 ※印の人口と世帯数および1980年(昭和55年)、1985年(昭和60年)、1990年(平成2年)、1995年(平成7年)、2000年(平成12年)、2005年(平成17年)～2017年(平成29年)の世帯数については県推計による。
- 2) 1890年(明治23年)～1910年(明治43年)および1915年(大正4年)については各年12月末現在である。

出典：文献リスト No. 7-3、7-4

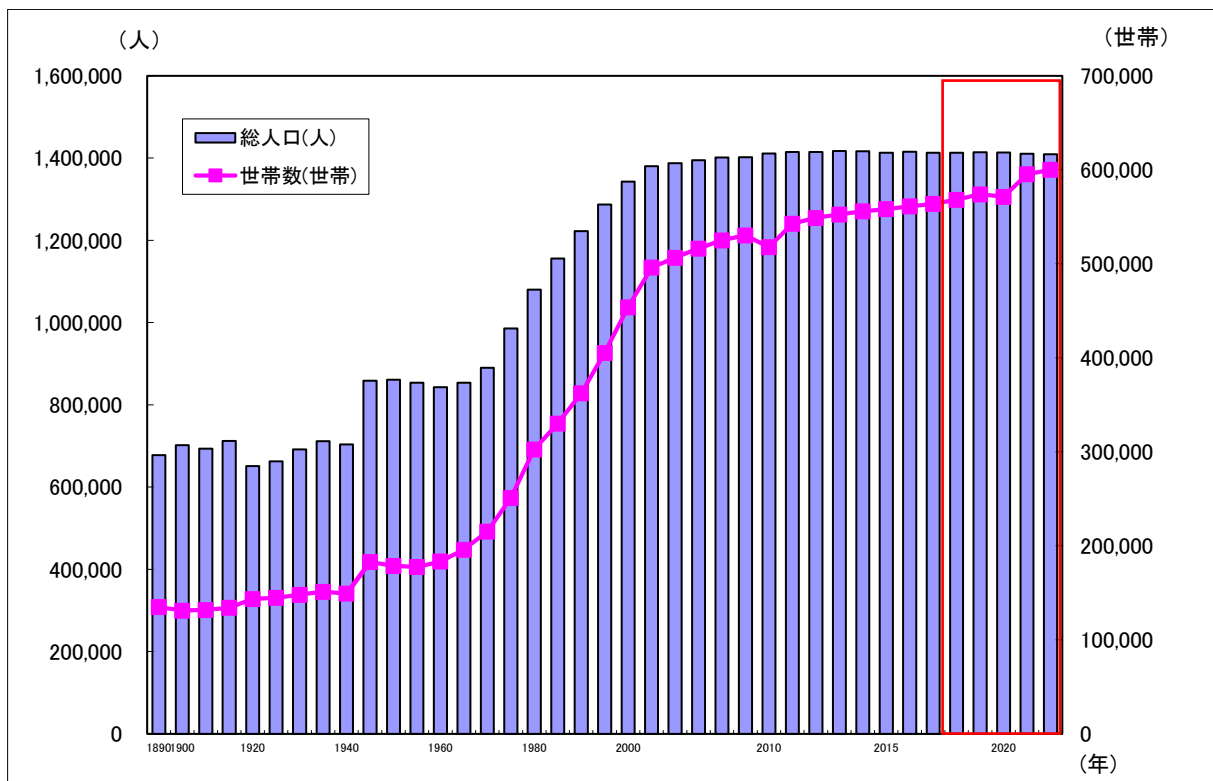


図 7.2-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

出典：文献リスト No. 7-3、7-4

### (3) 就業者数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における就業者数の推移を表 7.2-3、図 7.2-3 に示す。

平成 27 年から令和 2 年にかけて第 1 次産業～第 2 次産業において全体的に若干の減少傾向に、第 3 次産業は若干の増加傾向にある。また、令和 2 年の第 3 次産業は全体の 60%強を占めている。なお、近年、分類不能な産業が増加している。

表 7.2-3 滋賀県内における就業者数の推移

産 業 別	就 業 者 数 (人)							増 加 率 (%)					
	平成2年	7	12	17	22	27	令和2年	12/7	17/12	22/17	27/22	2/27	
総数	600,978	654,947	669,487	680,478	673,612	677,976	666,602	2.2	1.6	△0.0	0.0	△0.0	
第1次産業	34,527	33,047	23,518	25,145	18,548	17,935	15,971	△28.8	6.9	△0.3	△0.0	△0.1	
農業	32,827	31,518	22,213	24,133	17,380	16,971	15,124	△29.5	8.6	△0.3	△0.0	△0.1	
林業	663	637	530	366	648	497	452	△16.8	△30.9	0.8	△0.2	△0.1	
漁業	1,037	892	775	646	520	467	395	△13.1	△16.6	△0.2	△0.1	△0.2	
第2次産業	255,076	267,257	259,531	234,322	220,587	220,904	212,389	△2.9	△9.7	△0.1	0.0	△0.0	
鉱業	358	378	304	196	178	163	161	△19.6	△35.5	△0.1	△0.1	△0.0	
建設業	47,437	57,240	56,276	50,194	41,751	39,953	37,745	△1.7	△10.8	△0.2	△0.0	△0.1	
製造業	207,281	209,639	202,951	183,932	178,658	180,788	174,483	△3.2	△9.4	△0.0	0.0	△0.0	
第3次産業	309,539	352,168	378,477	411,386	400,229	414,488	416,840	7.5	8.7	△0.0	0.0	0.0	
電気・ガス・熱供給・水道業	3,063	3,558	3,789	2,917	2,818	2,873	2,425	6.5	△23.0	△0.0	0.0	△0.2	
運輸・通信業	31,981	35,771	36,841	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
(情報通信業)	-	-	-	8,249	8,015	8,468	8,606	-	-	-	-	0.1	0.0
(運輸業)	-	-	-	29,911	32,427	31,699	30,892	-	-	-	-	△0.0	△0.0
卸売・小売業、飲食店	110,528	123,423	129,818	-	-	-	-	5.2	-	-	-	-	
(卸売・小売業)	-	-	-	107,326	99,093	95,455	92,951	-	-	-	-	△0.0	△0.0
金融・保険業	15,523	16,452	14,924	14,174	14,077	13,827	12,495	△9.3	△5.0	△0.0	△0.0	△0.1	
不動産業	3,765	4,187	4,758	5,808	7,963	9,155	9,418	13.6	22.1	0.4	0.1	0.0	
サービス業	124,300	147,797	166,309	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	
学術研究、専門・技術サービス	-	-	-	-	-	17,840	20,050	-	-	-	-	0.1	
(飲食店・宿泊業)	-	-	-	29,441	34,766	35,144	33,422	-	-	0.2	0.0	△0.0	
生活関連サービス業、娯楽業	-	-	-	-	-	22,935	21,374	-	-	-	-	△0.1	
(医 療 ・ 福 祉)	-	-	-	56,555	66,323	78,390	84,348	-	-	0.2	0.2	0.1	
(教育・学習支援業)	-	-	-	32,162	32,394	34,005	36,083	-	-	0.0	0.0	0.1	
(複合サービス事業)	-	-	-	7,928	4,719	5,844	5,111	-	-	△0.4	0.2	△0.1	
(サービス業(他に分類されないもの))	-	-	-	93,877	75,872	36,379	37,958	-	-	△0.2	△0.5	0.0	
公務(他に分類されないもの)	20,379	20,980	22,038	23,038	21,762	22,474	21,707	5.0	4.5	△0.1	0.0	△0.0	
分類不能の産業	1,836	2,475	7,961	9,625	34,248	24,649	21,402	221.7	20.9	2.6	△0.3	△0.1	

注) 2002年(平成14年)に産業分類が改訂されたため、2000年(平成12年)以前の産業分類と2005年(平成17年)の産業分類とはリンクしていない。

出典：文献リスト No. 7-3

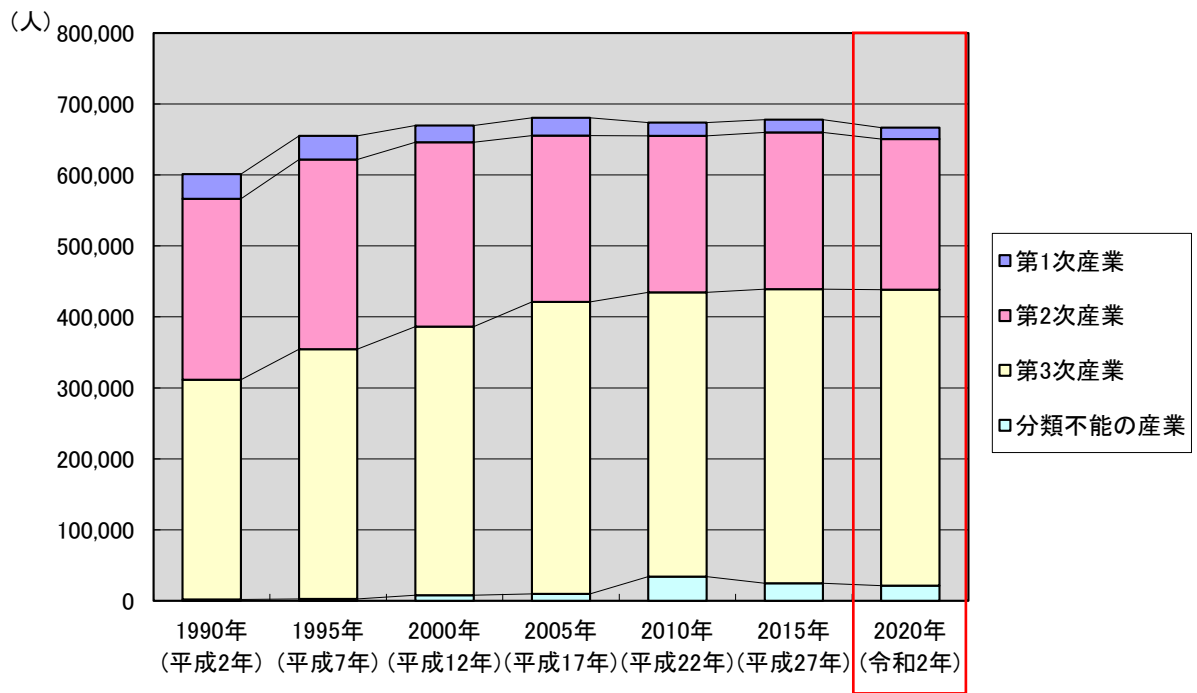


図 7.2-3 滋賀県内における就業者数の推移

出典：文献リスト No. 7-3

#### (4) 土地利用と産業

滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移について、図 7.2-4 に示す。

1967年(昭和42年)から2021年(令和3年)の55年間の変化を見ると、水田は650km<sup>2</sup>から491km<sup>2</sup>と159km<sup>2</sup>(25%)の減少、畑地は87km<sup>2</sup>から54km<sup>2</sup>と33km<sup>2</sup>(38%)の減少、宅地は85km<sup>2</sup>から235km<sup>2</sup>と150km<sup>2</sup>(176%)の増加であり、同期間における全国値(18%減, 11%減, 141%増)と比較すると、都市化の進行に伴う農地から宅地その他への転用が急速に行われたといえる。

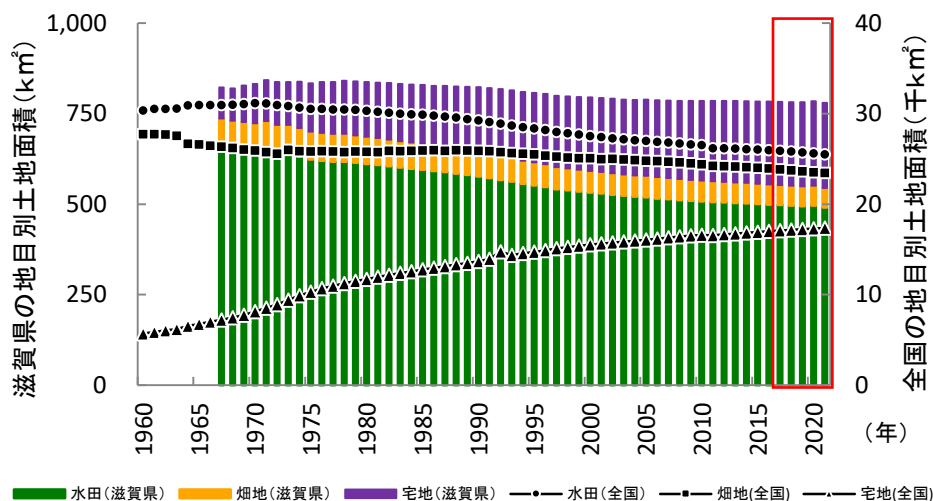


図 7.2-4 滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移

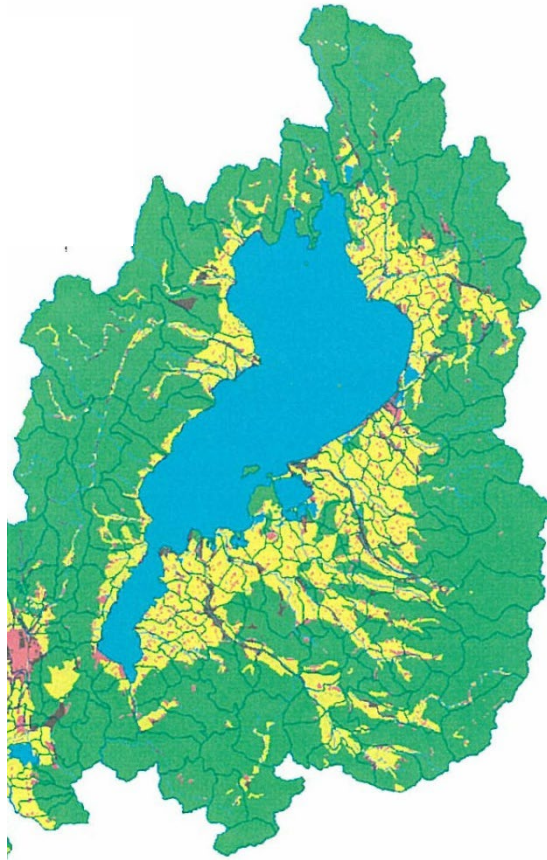
出典：文献リスト No. 7-5、7-6

図 7.2-5 に示す琵琶湖流域の土地利用分布をみると、農地は主に琵琶湖東岸の低地に分布しており、西岸側にはわずかにしかないことがわかる。市街地についても同様に、西岸より東岸に多く分布しており、他には南部の地域にも多く分布している。

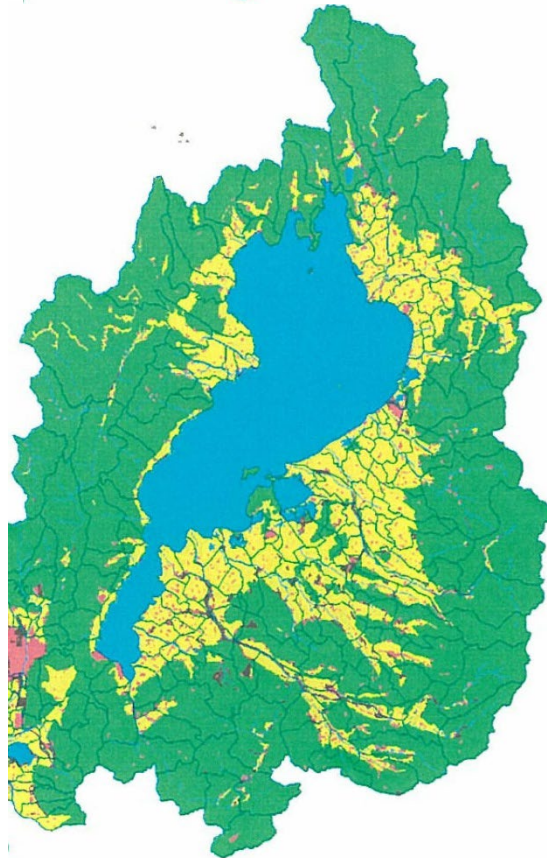
また、経年的な推移からみると、東岸域を中心に森林が農地に改変していく状況がうかがえ、近年では、これらの農地が宅地に変わっていることがわかる。



1895年（明治28年）



1913年（大正2年）

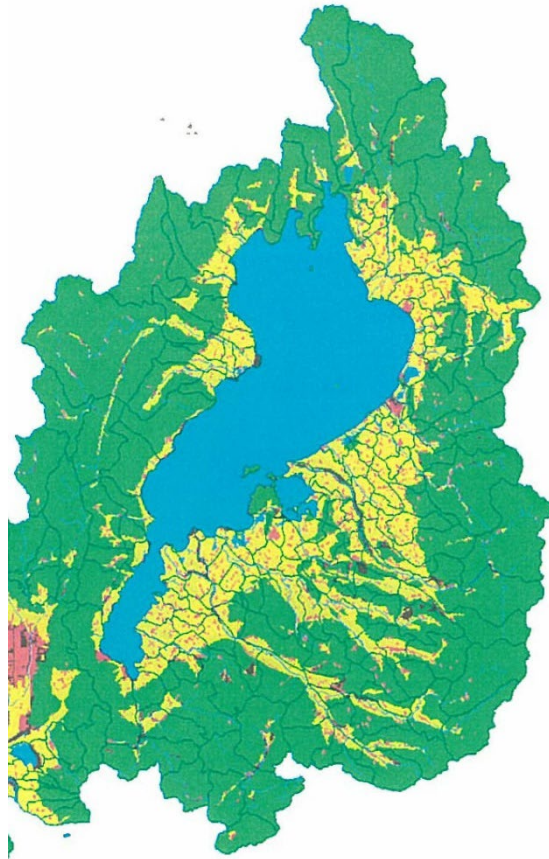


凡 例	
—	市 町 村 境 界 Municipality Boundary
■	森 Forests
■	農 地 Farm Land
■	市 街 地 Urban Areas
■	未 分 類 地 Unidentified Areas
■	水 面 Water areas

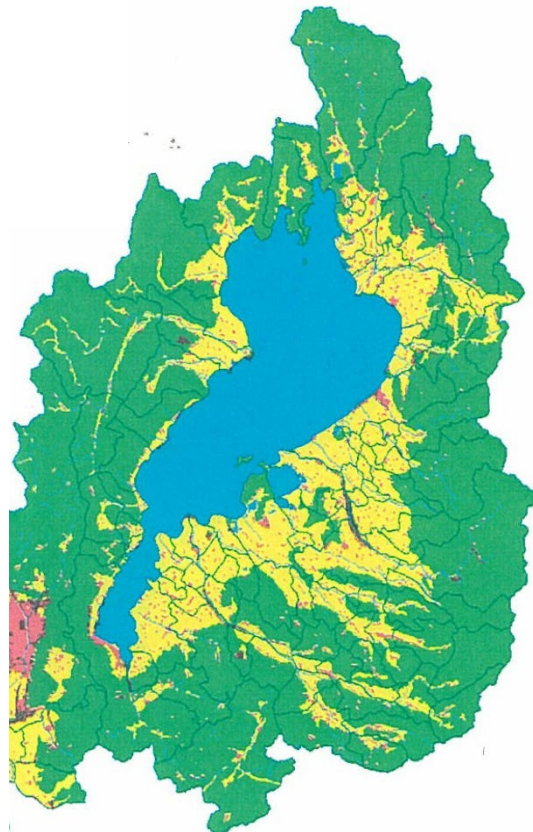
図 7.2-5(1) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-7

1935年 (昭和10年)



1955年 (昭和30年)



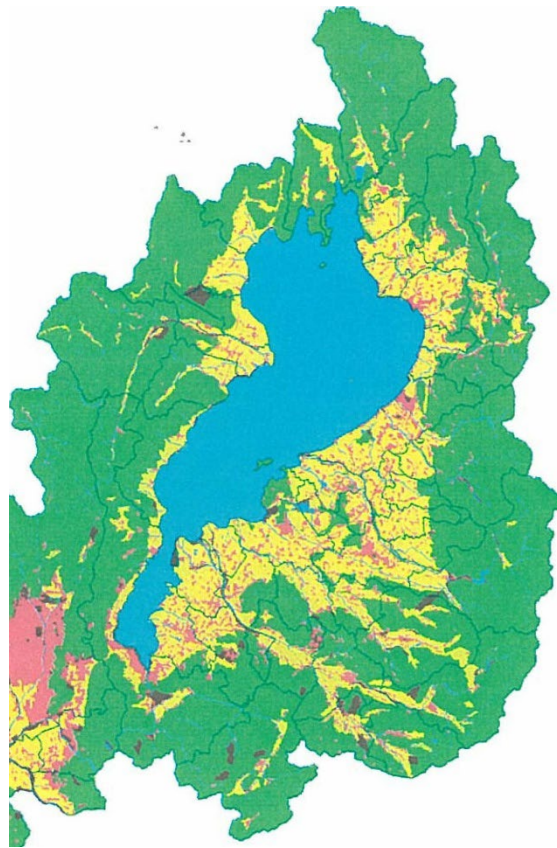
凡 例	
—	市 町 村 境 界 Municipality Boundary
■ (Green)	森 Forests 林
■ (Yellow)	農 Farm Land 地
■ (Red)	市 街 Urban Areas 地
■ (Grey)	未 分 類 Unidentified Areas 地
■ (Blue)	水 Water areas 面

図 7.2-5 (2) 琵琶湖流域の土地利用状況

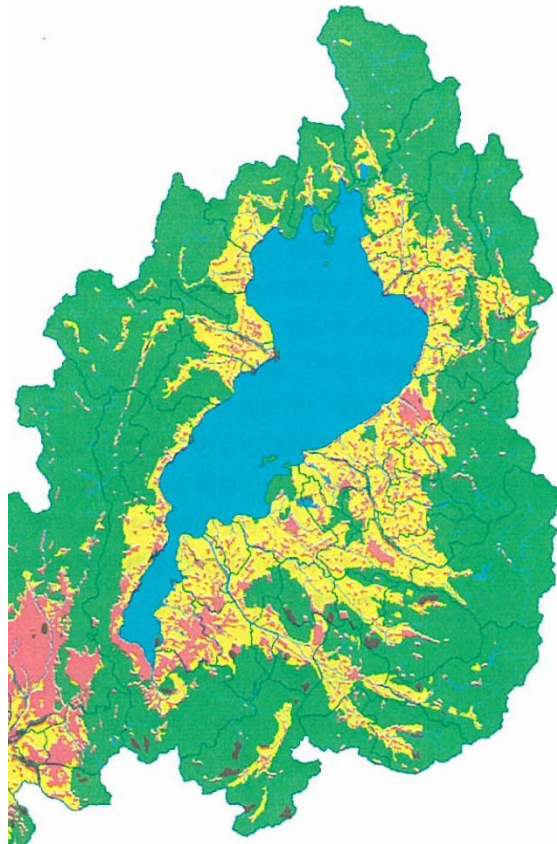
出典：文献リスト No. 7-7



1975年 (昭和50年)



1992年 (平成4年)

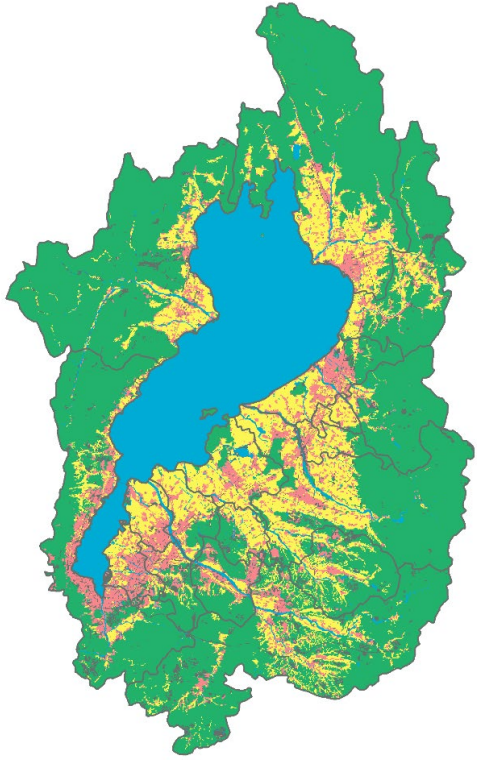


凡 例	
—	市 町 村 境 界 Municipality Boundary
■	森 Forests
■	農 地 Farm Land
■	市 街 地 Urban Areas
■	未 分 類 地 Unidentified Areas
■	水 面 Water areas

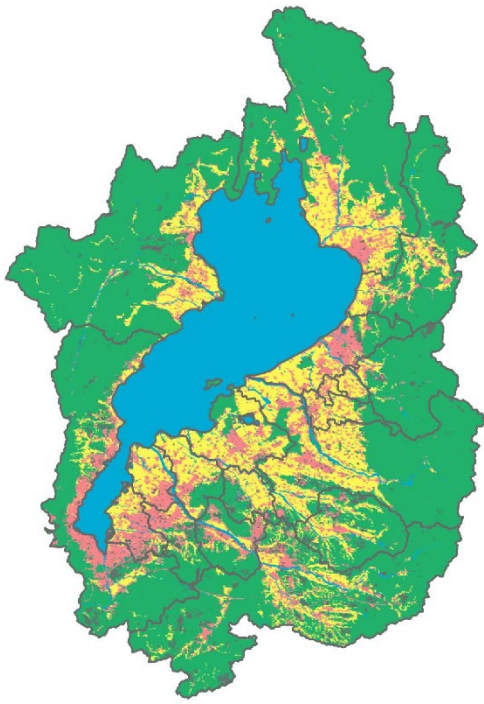
図 7.2-5 (3) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-7

2014年（平成26年）



2021年（令和3年）



凡例\_土地利用  
■ 森林地  
■ 農地  
■ 市街地  
■ 未分類地  
■ 水面

図 7.2-5(4) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-8

## 7.2.2 立地特性

### (1) 琵琶湖へのアクセス

琵琶湖は大阪から北東へ 40km、京都より東へ 10km のところに位置し、琵琶湖周辺は古来より交通網が発達してきた。大阪都心部から自動車で名神高速道路を利用して約 1 時間（大津市内）、JR、京阪線を利用して約 1 時間（大津駅、浜大津駅）でアクセスでき、また、京都からは自動車で名神高速道路を利用して 20 分（大津市内）、市営地下鉄、京阪線を利用して 30 分（浜大津駅）の位置にある。更に、琵琶湖周辺の交通網が発達していることから周辺地域へのアクセスも容易である。また、琵琶湖開発事業による湖岸堤管理道路は県道としての供用も行われており、観光や流通の他、県民生活にとっても重要な道路として利用されている（図 7.2-6、図 7.2-7）。

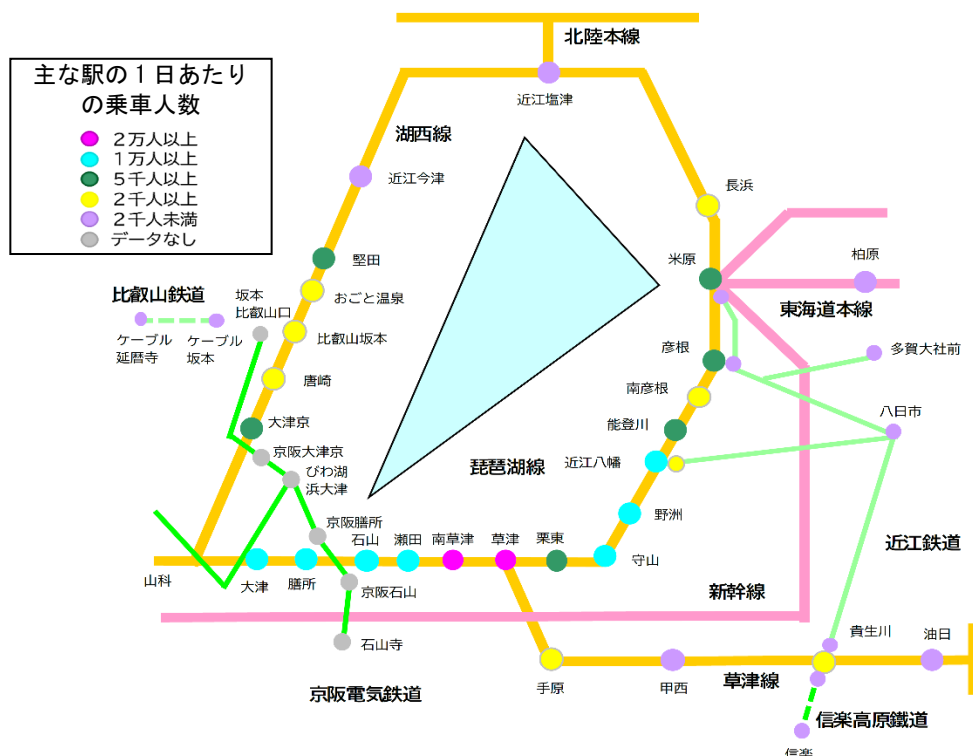


図 7.2-6 周辺都市からの交通網

出典：文献リスト No. 7-9

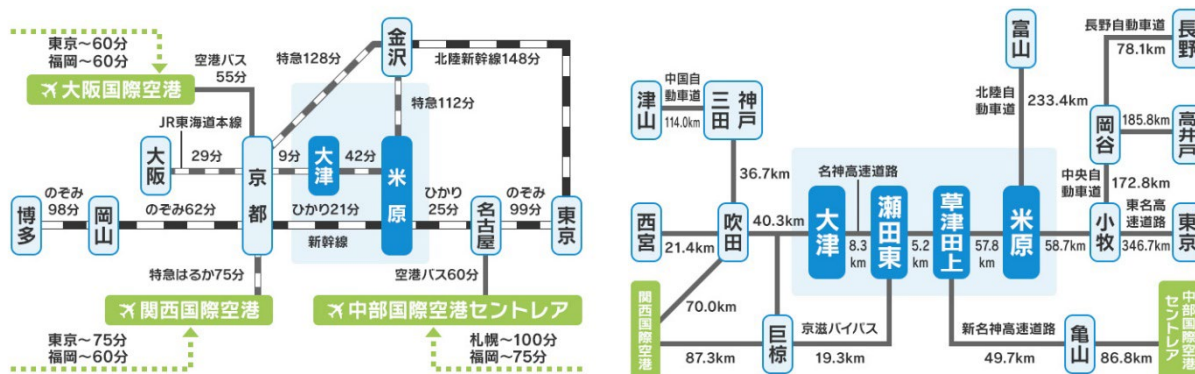
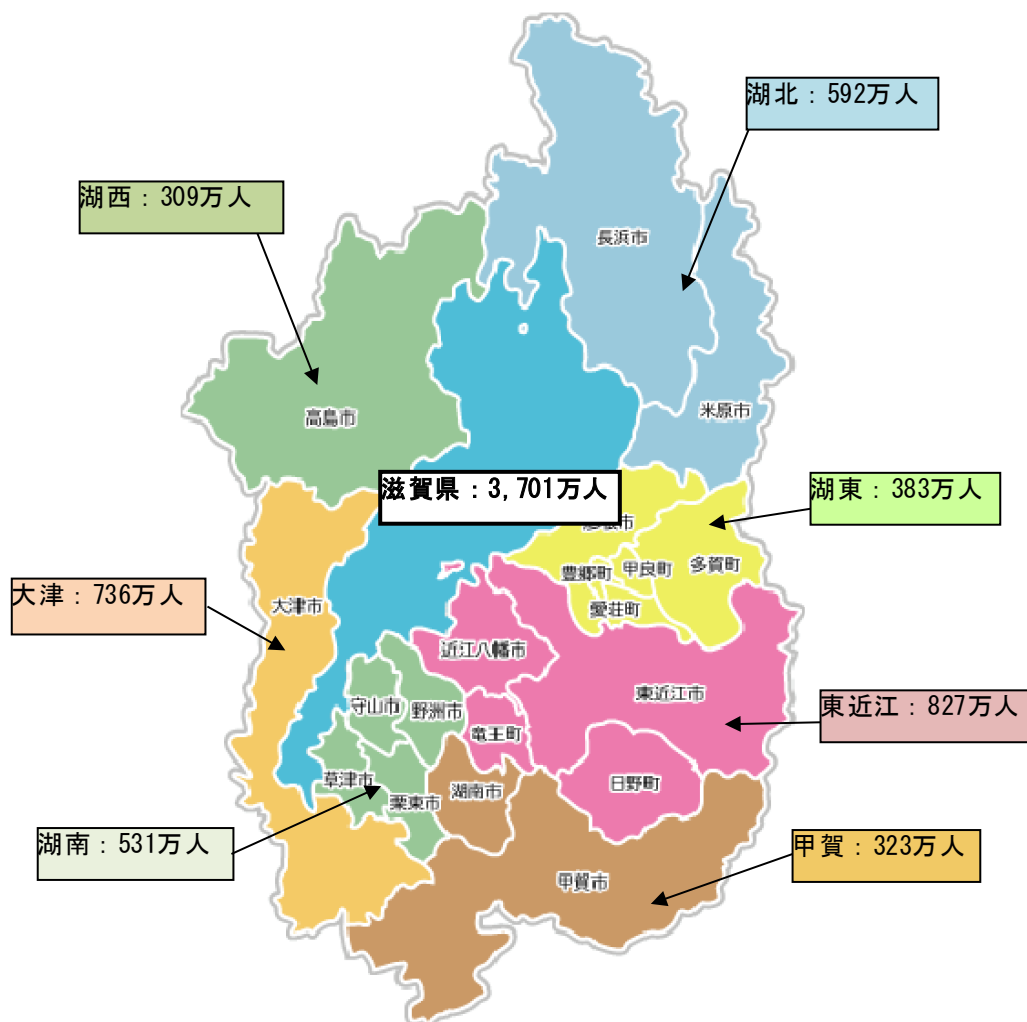


図 7.2-7 滋賀県へのアクセス

出典：文献リスト No. 7-10

## (2) 周辺の観光施設等

琵琶湖周辺には、様々な観光資源があり図 7.2-8 に示すように多くの人が訪れている。流域の代表的な観光資源としては、琵琶湖の美しい景色として「琵琶湖八景」や「近江八景」といった名称で知られている。



		滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	三重県
観光客数 (万人)	平成 22 年	4,357	7,674	15,883	4,464	3,562
	平成 28 年	5,077	8,741	未実施	4,407	4,189
	令和 3 年	3,701	1,721	未実施	2,415	2,682

図 7.2-8 琵琶湖周辺の観光入込み数 (平成 22 年、平成 28 年、令和 3 年)

令和3年京都府に京都市のデータが含まれていない。以下参照

[令和3年京都府域\(京都市を除く地域\)の観光入込客数及び観光消費額について/京都府ホームページ \(pref.kyoto.jp\)](https://pref.kyoto.jp)

出典：滋賀県地図

文献リスト No. 7-11

入込み数

滋賀県：文献リスト No. 7-12

京都府：文献リスト No. 7-13

大阪府：文献リスト No. 7-14

奈良県：文献リスト No. 7-15

三重県：文献リスト No. 7-16



琵琶湖周辺の観光施設等を図 7.2-9 ～図 7.2-13、表 7.2-4～表 7.2-6 に示す。



図 7.2-9 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-17

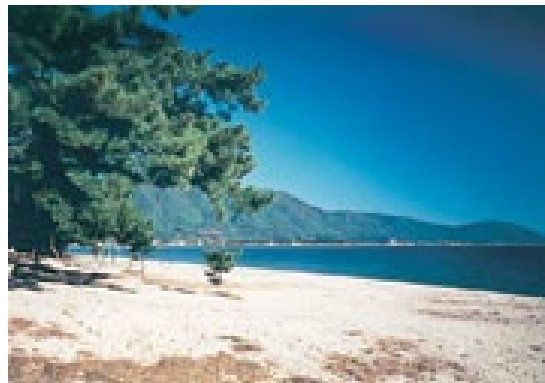
表 7.2-4 琵琶湖周辺の観光名所等

名 称	概 要	所在地
①「暁霧」海津大崎の岩礁	荒々しく、雄大な風景が見られ湖面から立ちのぼる霧が岩礁をつつんで、幻想的です。	高島市 マキノ町
②「涼風」雄松崎の白汀	“松は緑に砂白き...”と、「琵琶湖周航の歌」に歌われています。	大津市 志賀町
③「煙雨」比叡の樹林	深い樹林の中に、延暦寺などが建ちならび、雨にかすむ静かな雰囲気を感じられます。	大津市 坂本本町
④「夕陽」瀬田石山の清流	夕日に映える瀬田川の流れには日本三名橋の一つ唐橋がかかり、美しい風景です。	大津市 瀬田
⑤「新雪」賤ヶ岳の大観	賤ヶ岳は、羽柴秀吉と柴田勝家が戦った「賤ヶ岳の合戦」でその名を歴史にとどめています。	長浜市 木之本町
⑥「深緑」竹生島の沈影	深い緑に包まれ、青い水面に映る島影はびわ湖を代表する風景の一つです。	長浜市 早崎町
⑦「月明」彦根の古城	月明かりに浮かび上がる古城は、訪れる人々に歴史の重みを感じさせます。	彦根市
⑧「春色」安土八幡の水郷	西の湖を中心に水路が網の目のように広がり、ヨシ群落の中を水郷めぐりができます。	近江八幡市 安土町

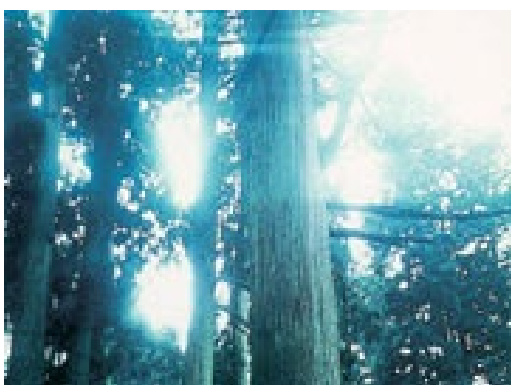
出典：文献リスト No. 7-17



「暁霧」海津大崎の岩礁



「涼風」雄松崎の白汀



「煙雨」比叡の樹林



「夕陽」瀬田石山の清流



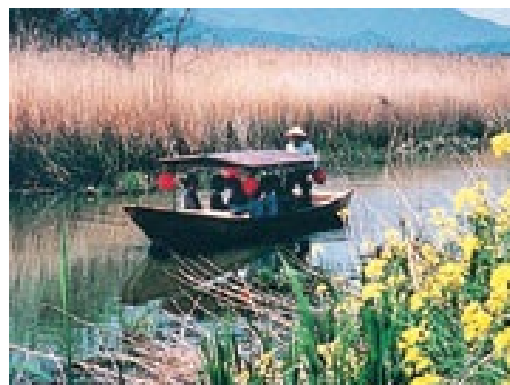
「新雪」賤ヶ岳の大観



「深緑」竹生島の沈影



「月明」彦根の古城



「春色」安土八幡の水郷

図 7.2-10 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-17



図 7.2-11 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-17

表 7.2-5 琵琶湖周辺の観光名所等

比良の暮雪 (ひらのぼせつ)	堅田の落雁 (かたたのらくがん)	唐崎の夜雨 (からさきのやう)	三井の晩鐘 (みいのばんしょう)
栗津の晴嵐 (あわづのせいらん)	矢橋の帰帆 (やばせのきはん)	瀬田の夕照 (せたのせきしょう)	石山の秋月 (いしやまのしゅうげつ)

出典：文献リスト No. 7-17



図 7.2-12 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-18

表 7.2-6(1) 琵琶湖周辺の観光名所等

名 称	概 要	所在地
ビワコマイアミランド	平成6年(1994年)4月にオープンしたビワコマイアミランドは、琵琶湖国定公園湖岸緑地マイアミ・アヤメ浜園地にあり、沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の素晴らしい環境にあります。この恵まれた大自然の中で、のんびりとキャンプやテニス、ローンフィールド、バードウォッチング等を楽しめます。また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できます。	野洲市
烏丸半島	草津市域の最北、琵琶湖に突き出す烏丸半島周辺には、琵琶湖の原風景といわれるヨシ原が今もその姿をとどめています。半島内には日本最多のスイレンコレクションを誇る「水生植物公園みずの森」、「湖と人間」をテーマに、見て触れて体験できる「琵琶湖博物館」があります。夏の風物詩となった「熱気球フライト」、「イナズマロックフェス」の開催地としても知られ、話題いっぱいのスポットです。	草津市
高島市新旭水鳥観察センター	秋になると、カモ類をはじめとする数多くの水鳥が観察できる高島市の湖辺。水上に倒立して水草を食べるオナガガモや、マガモ・コガモ・ヒドリガモ・ヨシガモなどの淡水ガモ、水に潜って魚・貝類を食べる潜水ガモやカイツブリなどをじっくりと観察できます。また、琵琶湖でも見られるところが限られているコハクチョウやオオバンの大群も見られることがあります。センターの大きな窓からは穏やかな琵琶湖の入江が一望でき、望遠鏡で見ると、北方から渡ってきた水鳥たちの細やかな仕草がよく分かります。湖岸のコースを歩くとさらに、たくさんの鳥たちが身近に感じられます。	高島市
琵琶湖水鳥・湿地センター	県内随一の野鳥の生息地である湖北町水鳥公園の拠点施設です。湖北野鳥センターでは、設置された望遠鏡(20台)でセンター前の湖岸に羽根を休める野鳥を観察することができます。	長浜市
浮御堂	近江八景「堅田の落雁」で名高い浮御堂は、寺名を海門山満月寺という。平安時代、恵心僧都が湖上安全と衆生済度を祈願して建立したという。現在の建物は昭和12年の再建によるもので、昭和57年にも修理が行われ、昔の情緒をそのまま残している。境内の観音堂には、重要文化財である聖観音座像が安置されている。	大津市

出典：文献リスト No. 7-10



表 7.2-6 (2) 琵琶湖周辺の観光名所等

名 称	概 要	所在地
白鬚神社大鳥居 ※1	湖中に朱塗りの大鳥居があり、国道 161 号線をはさんで社殿が鎮座します。「白鬚さん」(しらひげさん)、「明神さん」の名で広く親しまれ、また近江の巖島(いつくしま)とも呼ばれる近江最古の大社です。社名のとおり、延命長寿・長生きの神様として知られ、また、縁結び・子授け・開運招福・学業成就・交通安全・航海安全など、人の営みごと、業ごとすべての「導きの神」でもあります。祭神は猿田彦命(さるたひこのみこと)です。創建約 2000 年の歴史を誇り、現在の社殿は豊臣秀吉の遺命によって、その子秀頼が片桐且元(かたぎりかつもと)を奉行として造営したものです。	高島市
竹生島	沖合約 6km に浮かぶ周囲 2km あまりの小島で、宝巖寺と都久夫須麻神社が祀られています。宝巖寺の本尊は弁才天と千手観音。弁才天は安芸の宮島、相模の江島とともに日本三弁天に数えられています。また、中世以来西国三十三所観音霊場の三十番札所として多くの参詣客で賑わっています。	長浜市
彦根城	姫路城などとともに天下の名城の一つに数えられる彦根城は、井伊直継(なおつぐ)・直孝(なおたか)によって約 20 年の歳月をかけて建設され、元和 8 年(1622)に完成しました。佐和(さわ)山城・安土城・長浜城・大津城の石垣や用材が使われました。月明かりに浮かぶ彦根城は美しく、琵琶湖八景の一つに数えられています。	彦根市
滋賀県立琵琶湖博物館	「人と湖」をテーマに、琵琶湖の生い立ち・人と生き物との関わりについて家族で楽しみながら学べる「体験型」博物館です。淡水の生き物の展示としては日本最大級の水族展示は、2016 年夏にリニューアルしてパワーアップ。関西ではここでしか見られない大人気のバイカルアザラシは必見です。2018 年にリニューアルしたディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは子供から大人まで五感を使って琵琶湖や生き物を楽しめる仕掛けがたくさん。さらに、博物館から琵琶湖へ向かう空中遊歩道「樹冠トレイル」もオープンし、より琵琶湖も近くなりました。2020 年 10 月、約 6 年の歳月をかけて行ってきたリニューアルが完成しグランドオープンを迎えました。今回リニューアルした A 展示室では世界でも珍しい「半身半骨」のツダンスキーズウ標本や、B 展示室では、AR(拡張現実)技術によりタブレット上で琵琶湖に浮かぶ丸子船の映像を体験できるコーナーなど見どころが満載です。	草津市
草津市立水生植物公園みずの森	三方を豊かな琵琶湖の自然に囲まれた心安らぐ植物園です。見どころは四季を彩る草花が美しい「丘の上の花園」や、水生植物と草花が織りなすハーモニーが幻想的な「花影の池」等。なかでもスイレンのコレクションは日本最多で、他では見られない水生植物が観察できます。7 月下旬には、ハス祭りが行われます。	草津市
水のめぐみ館 アクア琵琶	琵琶湖と淀川の治水と利水について、さまざまな角度から紹介するコミュニケーションスペース。模型やパネル紹介、キャラクター・ビワズくんが出題するパソコンゲームで琵琶湖をじっくり学べる。屋外に設けられた「雨体験室」では世界最大の雨が体験できる。	大津市
滋賀県立安土城考古博物館	当館は、特別史跡安土城跡・史跡大中の湖南遺跡・史跡瓢箪山古墳・史跡観音寺城跡からなる歴史公園「近江風土記の丘」の中核施設として平成 4 年に開館しました。第 1 常設展示室では「考古」をテーマに弥生時代、古墳時代の近江にタイムスリップします。第 2 常設展示室では、「中世・戦国時代」をテーマに、安土城をはじめとする城郭の変遷や織田信長の人物像にせまります。	近江八幡市

出典：文献リスト No. 7-10

マイアミランド：2021 年(令和 3 年)1 月 13 日現在

烏丸半島：2018 年(平成 30 年)7 月 30 日現在

高島市新旭水鳥観察センター：2022 年(令和 4 年)10 月 24 日

琵琶湖水鳥・湿地センター：2022 年(令和 4 年)10 月 17 日現在

浮御堂：2015 年(平成 27 年)7 月 3 日現在

竹生島：2022 年(令和 4 年)9 月 9 日現在

彦根城：2020 年(令和 2 年)4 月 15 日現在

琵琶湖博物館：2021 年(令和 3 年)8 月 3 日現在

草津市立水生植物公園みずの森：2020 年(令和 2 年)5 月 2 日現在

水のめぐみ館アクア琵琶：2016 年(平成 28 年)6 月 30 日現在

滋賀県安土城考古博物館：2019 年(令和元年)10 月 6 日現在

※1 白鬚神社大鳥居：「高島市観光ガイド」(2023 年(令和 5 年)7 月現在)、高島市 HP



マイアミランド



烏丸半島



高島市新旭水鳥観察センター



琵琶湖水鳥・湿地センター



浮御堂



白鬚神社大鳥居



竹生島



彦根城

図 7.2-13(1) 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-18



滋賀県立琵琶湖博物館



草津市立水生植物公園みずの森



水のめぐみ館アクア琵琶



滋賀県立安土城考古博物館

図 7.2-13(2) 琵琶湖周辺の観光名所等

出典：文献リスト No. 7-18



### 7.3 事業と地域社会情勢の変遷

#### 7.3.1 琵琶湖と地域社会の変遷

琵琶湖と地域社会の変遷について表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1 琵琶湖流域社会の歴史の変遷

年代	元号	西暦	日本の主なできごと	琵琶湖流域社会の変遷
明治	明治	1	明治維新  旧河川法成立 日露戦争終	大津県がおかれる
		7		鳥居川量水標設置
		11		大戸川流域直轄砂防事業がはじまる
		23		琵琶湖第一疏水、インクライン完成
		26		彦根測候所開設
		29		淀川河川法ができる。県下大洪水（+3.73m）
		38		南郷洗ぜき完成（延長 100 間、工事費約 25 万円）
		45		琵琶湖第二疏水工事完成
大正	大正	2	第一次世界大戦始まる	宇治川発電所完成
		3		京大、大津臨湖実験開設
		8		伊吹山観測所気象観測開始
		14		大津柳ヶ崎水泳場、県下初の公衆水泳場とし開設
昭和	昭和	15	太平洋戦争勃発  国土総合開発法公布 下水道法成立 水資源開発二法成立 新河川法成立 東京オリンピック  水質汚濁防止法成立 琵琶湖総合開発特別措置法成立  琵琶湖総合開発特別措置法の一部改正法が成立 湖沼水質保全特別措置法成立	瀬田町で琵琶湖からの逆水かんがい成功
		16		県営琵琶湖干拓地決定（松原、曾根沼等の内湖）
		19		琵琶湖国定公園指定（日本では最初の国定公園）
		25		比叡山ドライブウェイ開通
		33		瀬田川洗ぜき完成
		36		琵琶湖大橋、天ヶ瀬ダムができる
		39		大中ノ湖南遺路本格的調査
		41		南郷水産センターができる。大中ノ湖干拓ほぼ完成
		44		三上、田上、信楽を県立自然公園に指定。 県公害防止条例ができる
		45		滋賀県自然環境保全条例ができる
		47		琵琶湖開発事業着手
		48		国鉄湖西線が開業
		49		琵琶湖に赤潮発生
		52		野洲川放水路通水「琵琶湖富栄養化防止条例」施行
54	草津市矢橋の湖南中部流域下水道浄化センター 第一期工事が完成した供給開始			
57	沖島特定環境保全公共下水道が完成 第 1 回世界湖沼会議開催			
59				
平成	平成	4	阪神・淡路大震災  河川法改正 琵琶湖総合開発特別措置法失効  「外来生物法」「景観法」制定  東日本大震災  「気候変動適応法」が施行	琵琶湖開発 管理開始
		5		琵琶湖、ラムサール条約登録湿地に認定
		6		北湖に初のアオコ発生、琵琶湖大濁水(-1.23m、9/15)
		7		滋賀県生活排水対策の推進に関する条例公布
		8		滋賀県環境基本条例の施行 琵琶湖総合開発事業終結
		9		
		12		滋賀県「マザーレイク 21 計画」を策定
		13		第 9 回世界湖沼会議開催
		15		第 3 回世界水フォーラム開催
		16		
		17		「琵琶湖淀川流域圏の再生計画」策定
		23		「マザーレイク 21 計画（第 2 期）」改定
		24		「第 6 期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」策定
27	琵琶湖の保全及び再生に関する法律 制定 滋賀県「琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）」策定			
29	「第 7 期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」策定			
30	滋賀県気候変動適応センターが設置			
31				
令和	令和	2	新型コロナ感染拡大により緊急事態宣言発令 東京オリンピック・パラリンピック	
		3		滋賀県「琵琶湖保全再生施策に関する計画（第 2 期）」策定
		4		「第 8 期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」策定
		5		天ヶ瀬ダム再開発事業完成

出典：文献リスト No. 7-19 に一部加筆

### 7.3.2 近年の動向

#### (1) マザーレイク 21 計画

マザーレイク 21 計画（琵琶湖総合保全整備計画）は、健全な琵琶湖を次世代に引き継ぐため、県民総ぐるみによる琵琶湖総合保全の指針として、国の関係する旧 6 省庁（国土庁（現、国土交通省）、環境庁（現、環境省）、厚生省（現、厚生労働省）、農林水産省、林野庁、建設省（現、国土交通省））による琵琶湖の総合的な保全のための計画調査を踏まえて、2000 年（平成 12 年）3 月に滋賀県が策定した。

その後、滋賀県では 2010 年（平成 22 年）度までの第 1 期計画期間の評価を踏まえて第 2 期計画期間の目標を設定し、2011 年（平成 23 年）10 月に「マザーレイク 21 計画」〈第 2 期改定版〉を策定した。また、2017 年（平成 29 年）3 月には、琵琶湖保全再生法（2015 年（平成 27 年）9 月施行）第 3 条に基づき、琵琶湖保全再生計画が策定され、令和 2 年度（2020 年度）にマザーレイク 21 計画の計画期間が終期を迎えるのを機に、今後の行政の施策については、琵琶湖保全再生計画に一元化された。また、これまでマザーレイク 21 計画により県民、事業者等と協働で進められてきた、マザーレイクフォーラムなどの取り組みは、「琵琶湖版 SDGs＝マザーレイクゴールズ（MLGs）」（2021 年（令和 3 年）7 月策定）での取り組みに継承された。

なお、マザーレイク 21 計画（第 2 期改定版による施策は、「琵琶湖総合保全整備計画（マザーレイク 21 計画）〈第 2 期改定版〉ふりかえり報告書」（令和 3 年 3 月滋賀県）として、滋賀県がとりまとめ、公表されている。

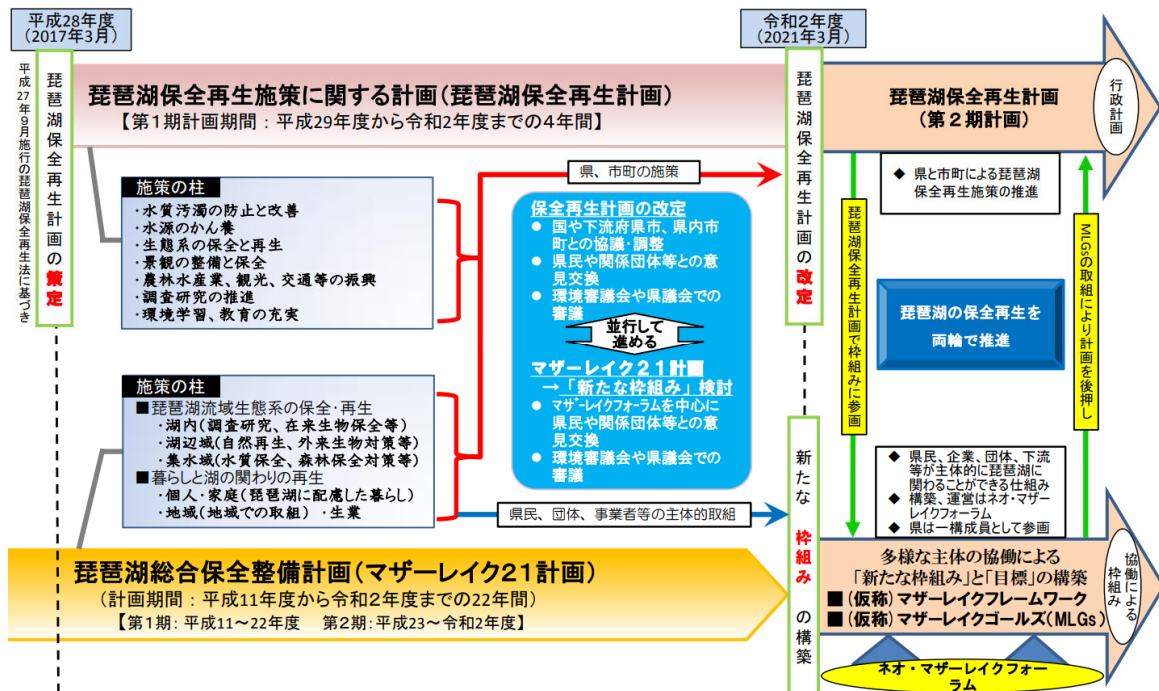


図 7.3-1 「琵琶湖保全再生計画」とマザーレイク 21 計画の関係

出典：文献リスト No. 7-20、7-21、7-22

## (2) マザーレイクゴールズ

マザーレイクゴールズ (Mother Lake Goals, MLGs) は、令和3年7月1日(「琵琶湖の日」40周年記念)に滋賀県が策定した「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標(ゴール)である。同施策の策定にあたっては、「マザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)〈第2期改定版〉」に基づき、同計画の進行管理および評価・提言を行う場として、設置されたマザーレイクフォーラムにより、活動成果の課題を踏まえた「びわ湖の”自治”と”連携”の実現に向けて、検討が進められた。

MLGsでは、琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールが設定されており、取り組みを広げるため、マザーレイクゴールズ(MLGs)アジェンダが掲げられている。MLGsの目標、理念に賛同する方は、宣言することにより賛同者として、滋賀県・琵琶湖の持続可能性に貢献していることをアピールすることができ、令和4年6月末現在で個人、団体等を含め約1250名に賛同が得られている。

なお、MLGsの推進体制は、「マザーレイクゴールズ推進委員会」、「マザーレイクゴールズ案内人」、「マザーレイクゴールズ学術フォーラム」の3つで構成されており、組織の運営は、当面の間、滋賀県が担うものとされている。



図 7.3-2 マザーレイクゴールズにおける13のゴール

出典：文献リスト No. 7-23

### (3) 琵琶湖・淀川流域圏の再生

#### 1) 都市再生のプロジェクト

2003(平成15)年11月28日、第6次都市再生プロジェクト「琵琶湖・淀川流域圏の再生」の実現を図るため、関係省庁及び地方公共団体等が、流域全体での一体的な取り組み体制を構築し、再生計画を策定した。「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに流域圏の関係機関が連携し、「歴史・文化を活かし自然と共生する流域圏・都市圏の再生」の実現を図ることとしている。

本計画の計画期間は、概ね今後5～10年間の具体化を目途とするが、より長期的(概ね20～30年間)な見通しを踏まえながら取り組むこととしている。

#### 2) 琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会

琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会は、琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会において、策定された「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」(以下「再生計画」という。)について、統合的流域管理の視点に立ち、各分野にまたがり地域を超えて各行政機関が協議・調整を行うとともに、再生プログラムの達成度・効果等の評価を行い、再生計画の具体的な推進を図ることを目的に設置された。

琵琶湖・淀川流域圏再生協議会は、平成28年度より「幹事会」「連絡調整会議」「流域企画ワーキング」の3つの構成となっている。

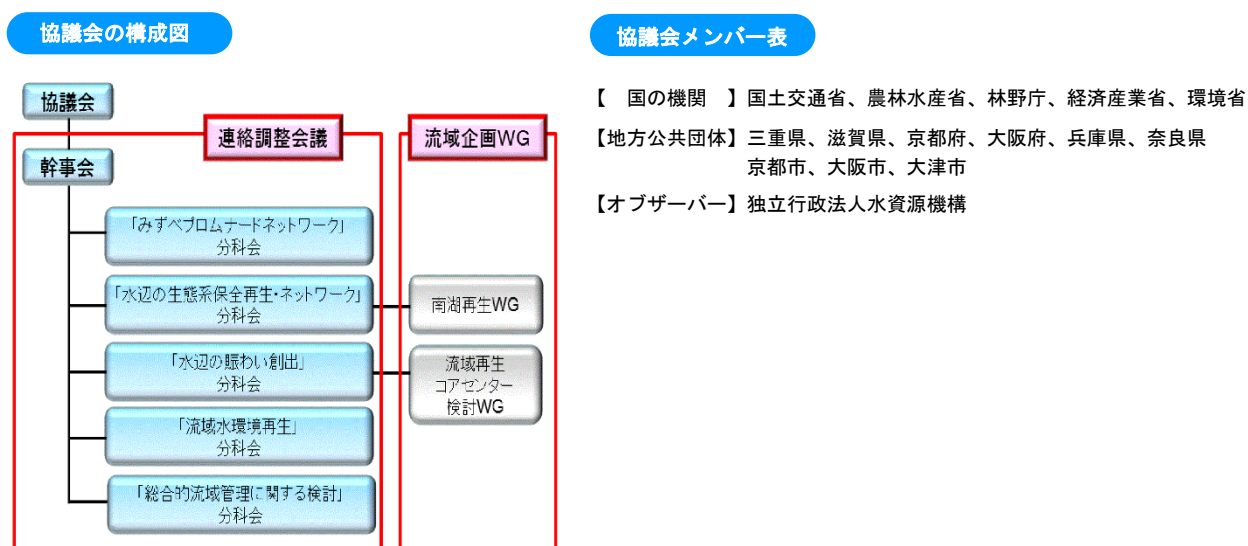


図 7.3-3 琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会の仕組み

### 3) 流域企画ワーキング

(平成 28 年度より他のワーキンググループと統合 (旧名称「南湖再生 WG」))

南湖を再生させるに当たっては、浚渫等による固定環境整備、水草異常繁茂対策、点源・面源からの流入負荷対策等様々な取り組みが必要である。本ワーキンググループは、各課題に関し、各機関が取り組んでいる調査・研究・対策について情報共有・交換し、これらが有効かつ効果的に実施されるよう連携及び調整を行う場として設置された。これまでに実施されている主な取り組みは次のとおりである。

なお、本ワーキンググループの取り組みは、年 1 回程度、琵琶湖・淀川流域再生推進協議会の場で報告がなされている。

- ①産卵環境に配慮した瀬田川洗堰操作
  - ②ヨシ群落保全・再生事業
  - ③水草異常繁茂対策
  - ④魚のゆりかご水田整備事業
- (その他、多数)



### 7.3.3 地域連携のための水資源機構の取り組み

#### (1) 琵琶湖沿岸の治水対策

琵琶湖沿岸の治水対策では、内水排除操作が重要である。内水排除計画は、一定の基準により定めた特定の地域における水田を対象として、農地が一時的に浸水することを許容し、また排水ポンプの運転は、操作開始の基準となる内水位、琵琶湖水位の低下傾向、流入河川の流下状況を踏まえ、操作の可否を判断するものである。これらの内水排除計画については、管理開始以降、数十年が経過した現在においても、十分に浸透されているとは言い難く、誤った認識のもと、農地利用されていることがある。また、時代の変遷により土地が水田から浸水を許容しない畑などに転換されている場合もある。

よって、琵琶湖沿岸の治水対策及び内水排除操作の計画については、現在の土地利用形態や行政・農地関係者らの人の代替わりなども考慮して、確実に伝えていくことが重要である。

水資源機構では、内水排除操作における操作の状況等を機構から直接連絡する行政の窓口事務所や改良区および市関係者などに対し、毎年出水期前に各地区（湖南地区、東近江地区、湖北地区、湖西地区）に「施設管理連絡会」を開催し、琵琶湖開発事業の内容、機構の管理施設、施設管理の業務内容、内水排除操作の方法と伝達手段について説明するとともに、排水機場のポンプ運転があっても初期には農地等が一時的に浸水することなどを説明している。また、「施設管理連絡会」とは別に「排水機場説明会」を開催し、土地改良区や地元自治会役員に対して、同様の説明を行うとともにポンプの試運転状況も見学して頂き、内水排除操作について理解を深めて頂いている。

内水排除計画に対する沿岸地域の方々のご理解は、琵琶湖沿岸の治水対策を成す必要不可欠なものであるため、引き続き実施していく。

#### (2) 琵琶湖及びその流域で実施されたイベント

琵琶湖開発事業と地域社会との関わりとして、琵琶湖及びその流域で実施された至近5ヶ年の主要なイベントの概要を表7.3-2に示す。また、いくつかのイベントの実施状況写真を図7.3-4、図7.3-5に示す。

琵琶湖及び流域で実施されたイベントは、機構主催によるお魚里帰り大作戦のほか、地元NPO法人団体等主催のあやめ浜祭り、家棟川ビオトープ魚の観察会などが例年開催されている。

なお、令和元年以降は、新型コロナウイルス感染症防止の観点からイベントの中止が多くみられた。

表 7.3-2(1) 至近5ヶ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2018 (H30)	3月3日	ヨシ焼きイベント	滋賀県高島市の機構事業用地内の前浜で春を呼ぶヨシ焼きイベントが行われ、地元のボランティア約30名が参加し、写真愛好家も多く集まった。
	4月8日	入江干拓マラソン	第6回『まいばら入江干拓マラソン』が、約1,100名の参加の下、機構が管理する米原排水機場と密接に関係する入江干拓を周遊するコースで開催された。
	5月10日 5月18日 5月22日 5月29日	湖西地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	6月5日	出前講座・現場見学会	身近にある排水機場や水門、樋門の役割や内水排除について、滋賀県東近江市立能登川北小学校6年生16名を対象に出前講座を実施した。また、浚渫土搬出工事の受注者と共同で、工事現場の現場環境改善の一環としての現場見学会を開催した。
	6月17日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。
	6月21日～	各地区排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	8月18日	下物ビオトープ観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	8月21日	あやめ浜祭り	NPO法人家棟川流域観光船が主催する上下流交流事業（あやめ浜まつり）が開催された。淀川流域における上下流の住民間の交流を促進し、琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶことを目的とし、大阪府豊中市の子供達と地元滋賀県野洲市等の子供達で、琵琶湖（あやめ浜）の清掃活動及びシジミの収穫体験を行った。
	9月9日	家棟川ビオトープ魚の観察会	NPO法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、野洲市、滋賀県の主催（協力：水資源機構）による家棟川ビオトープ魚の観察会が開催された。
	9月18日	環境学習会 特定外来生物（オオバナミズキンバイ）の駆除活動	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動を行った。
	10月9日	出前講座	身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに滋賀県彦根市市立旭森小学校5年生120名へ出前講座を実施した。
	10月28日	お魚里帰り大作戦2018（新浜ビオトープ）	ビオトープで生まれたフナ・コイなどの在来魚の子どもなどを捕まえて琵琶湖に放流する活動を通じて、琵琶湖の生き物をはじめとした環境とその大切さを学ぶことを目的としたイベントで、一般の参加者32名（子供19名含む）、機構職員や関係者16名の参加により開催した。
	11月11日	ヨシ植え・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜（機構事業用地）において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。
11月18日	家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）	滋賀県自然環境研究会、地元NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。	

出典：文献リストNo.7-24

表 7.3-2(2) 至近5ヶ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2019 (H31-R1)	4月14日	入江干拓マラソン	第7回『まいばら入江干拓マラソン』が、1,080名の参加の下、機構が管理する米原排水機場と密接に関係する入江干拓を周遊するコースで開催された。
	5月14日 5月21日 5月22日 5月23日	湖西地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	6月8日	ハマゴウ保全	当管理所が管理する前浜に生育するハマゴウ群落を保全するため、地元自治会（近江八幡市佐波江区）や学識者と生育箇所周辺の雑草の刈り取り等を行い、生育環境を整備した。
	6月9日	自然観察会（太田田んぼ池）	当管理所が構成員となっている「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月9日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。
	6月21日～ 6月27日	大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 磯排水機場説明会 米原排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会 針江・入道川排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月28日 7月1日 7月4日	「びわ湖の日」清掃活動	滋賀県が主催する「滋賀県ごみの散乱防止条例」の環境美化の日の取組として、事業用地保全のため湖岸のゴミ拾い等を行った。
	7月1日	第49回びわ湖（漁場）をきれいにする運動	7月1日を「びわ湖（漁場）をきれいにする運動」の日と定め、漁業者が琵琶湖に感謝の念を持って漁場環境の保全を図るため、一斉に清掃活動に取り組む。
	7月25日 8月17日	下物ビオトープ観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	8月10日	家棟川環境学習会（上下流交流会）	NPO 法人家棟川流域観光船が主催する上下流交流事業（家棟川の環境学習会及び生態調査）で、淀川流域における上下流の住民間の交流を促進し、琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶことを目的として、大阪府、京都府等の子供達と地元滋賀県野洲市等の子供達を対象に、家棟川において魚類の生態調査の学習会を行った。
	8月19日	あやめ浜祭り	NPO 法人家棟川流域観光船が主催する上下流交流事業（あやめ浜まつり）が開催された。淀川流域における上下流の住民間の交流を促進し、琵琶湖の自然環境及び水資源の大切さを学ぶことを目的とし、大阪府豊中市の子供達と地元滋賀県野洲市等の子供達で、琵琶湖（あやめ浜）の清掃活動及びシジミの収穫体験を行った。
	8月24日	家棟川ビオトープ観察会	NPO 法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、野洲市、滋賀県の主催（協力：水資源機構）による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。船に乗って家棟川周辺の自然や魚の観察、ビオトープ内の池で魚類や貝類、昆虫の採取と観察、魚や野草の天ぷらの試食などが実施された。
	9月7日	NPO 法人学生ボランティアの外来種駆除	滋賀県高島市針江の琵琶湖湖岸にて学生ボランティア団体（IVUSA）による琵琶湖外来生物除去大作戦2019が開催され、学生約200名、一般参加約30名でヨシ帯に入り込んだ特定外来種（オオバナミズキンバイ）を駆除した。
	10月1日	環境学習会	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動を行った。

出典：文献リスト No. 7-24

表 7.3-2 (3) 至近 5 ヶ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2019 (H31- R1)	10月27日	お魚里帰り環境学習会(新浜ビオトープ)	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除活動を行った。一般の方20名(大人9名、子ども11名)、他17名の合計37名が参加した。
	10月30日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに滋賀県彦根市市立旭森小学校5年生120名へ出前講座を実施した。
	11月9日	ヨシ植え・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜(機構事業用地)において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。
	11月17日	下物ビオトープ水抜き観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	11月30日	家棟川自然観察会(水鳥・ヨシ観察)	滋賀県自然環境研究会、地元NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。
	12月3日 【中止】	環境美化活動	—
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に配布した。

出典：文献リスト No. 7-24

表 7.3-2(4) 至近5ヶ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2020 (R2)	4月12日 【中止】	入江干拓マラソン	—
4月5日 7月18日 11月14日 2月20日 2月27日	堆肥配布会（湖南管理所）	湖南管理所にて堆肥の無料配布会を行った。	
4月20日～ 4月28日	湖西地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会	新型コロナウイルス感染症対策から会議形式ではなく個別説明または資料配布により実施した。	
6月上旬 【中止】	ハマゴウ保全	—	
6月7日 【中止】	自然観察会（太田田んぼ池）	—	
6月27日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。	
7月15日～ 20日	大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 磯排水機場説明会 米原排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会 入道川排水機場説明会	新型コロナウイルス感染防止対策から施設管理連絡会は資料配布を基本とし、排水機場施設見学会の意向を受け、7月15日～20日で見学会を実施した。	
7月1日 7月17日	「びわ湖の日」清掃活動	滋賀県が主催する「滋賀県ごみの散乱防止条例」の環境美化の日の取組として、事業用地保全のため湖岸のゴミ拾い等を行った。	
7月1日 【中止】	第50回びわ湖（漁場）をきれいにする運動	—	
7月上旬 8月9日 【中止】	下物ビオトープ観察会	—	
8月10日 【中止】	あやめ浜祭り	—	
8月29日 【中止】	家棟川環境学習会（上下流交流会）	—	
8月29日	家棟川ビオトープ観察会	NPO 法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、野洲市、滋賀県の主催（協力：水資源機構）による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。R2年は新型コロナウイルス感染拡大防止から、本来、別日で行っていた NPO 家棟川流域観光船が主催する環境学習会を兼ねる形で、野草や鮎の天ぷら試食の取り止めや3密の回避などの対策を講じて実施した。	
9月 【中止】	NPO 法人学生ボランティアの外来種駆除	—	
10月14日	環境学習会	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動を行った。	
10月23日 【中止】	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	—	
10月27日 直営作業のみ	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で実施した。	
10月 【中止】	出前授業	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前授業を実施した。	
11月3日	下物ビオトープ水抜き観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。	
11月7日	ヨシ植え・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜（機構事業用地）において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。	
12月13日	家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）	滋賀県自然環境研究会、地元NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。	
11月25日 12月1日	環境美化活動	滋賀県高島環境事務所が主催する「びわ湖の日」環境美化活動が開催された。	

出典：文献リスト No. 7-24

表 7.3-2(5) 至近5ヶ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2021 (R3)	2月上旬 【中止】	草津市こども環境会議	—
	4月12日 【中止】	入江干拓マラソン	—
	5月19日 6月18日 7月21日	環境学習会 特定外来生物（オオバナミズキンバイ）の駆除活動	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動を行った。
	6月2日	オオキンケイギクの駆除（環境学習会）	特定外来種オオキンケイギク駆除作業を実施した。
	6月6日	自然観察会（太田田んぼ池）	当管理所が構成員となっている「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月12日	ハマゴウ保全	当管理所が管理する前浜に生育するハマゴウ群落を保全するため、地元自治会（近江八幡市佐波江区）や学識者と生育箇所周辺の雑草の刈り取り等を行い、生育環境を整備した。
	6月26日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。
	【中止】	びわ湖（漁場）をきれいにする運動	—
	6月15日、17日 7月20日、26日	大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 磯排水機場説明会 米原排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会 入道川排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	7月1日	「びわ湖の日」清掃活動	滋賀県が主催する「滋賀県ごみの散乱防止条例」の環境美化の日の取組として、事業用地保全のため湖岸のゴミ拾い等を行った。
	8月7日 【中止】	下物ビオトープ生物観察会	—
	8月9日 【中止】	あやめ浜祭り	—
	8月9日 【中止】	家棟川環境学習会（上下流交流会）	—
	8月29日 【中止】	家棟川ビオトープ観察会	—
	8月、9月 【中止】	NPO 法人学生ボランティアの外来種駆除	—
	【中止】	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	—
	9月10日 9月21日 【中止】	出前講座	—
	10月31日	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。
	11月6日	下物ビオトープ水抜き観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	11月6日	ヨシ群落・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜（機構事業用地）において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。
	11月29日 11月30日 12月2日	環境美化活動	滋賀県高島環境事務所が主催する「びわ湖の日」環境美化活動が開催された。
	12月19日	家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）	滋賀県自然環境研究会、地元NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。

出典：文献リスト No. 7-24

表 7.3-2(6) 至近5ヶ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2022 (R4)	2月10日～ 2月27日	草津市こども環境会議	草津市が主催の「こども環境会議」において、「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」のパネル展示を行い、当管理所の取組等を紹介した。
	3月5日	漁師と一緒に野洲の山に木を植えよう	野洲市内にて、びわ湖の水と地域の環境を守る会、滋賀県漁業協同組合連合会が主催する(漁民の森づくり推進事業・ふれあいの森づくり事業イベント「漁師といっしょに野洲の山に木を植えよう!」)に参加した。
	4月2日 10月8日	堆肥配布会(長命寺)	湖岸堤の刈草を原料に堆肥を作り、長命寺揚陸施設にて配布し、資源のリサイクルで観光保全に努めている。
	4月 【中止】	入江干拓マラソン	—
	5月4日 12月18日	堆肥配布会(草津市水生植物公園みずの森)	湖岸堤の刈草を原料に堆肥を作り、草津市水生植物公園みずの森にて配布し、資源のリサイクルで観光保全に努めている。
	5月23日	オオキンケイギクの駆除(環境学習会)	特定外来種オオキンケイギク駆除作業を実施した。
	6月5日	自然観察会(太田田んぼ池)	当管理所が構成員となっている「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月11日	ハマゴウ保全	当管理所が管理する前浜に生育するハマゴウ群落を保全するため、地元自治会(近江八幡市佐波江区)や学識者と生育箇所周辺の雑草の刈り取り等を行い、生育環境を整備した。
	6月19日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会(東近江市栗見出在家区)と外来植物の駆除を行った。
	6月26日 6月27日 6月28日 6月28日 6月29日 7月4日	大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 磯排水機場説明会 米原排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会 入道川排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月28日 7月26日	オオバナミズキンバイの駆除(環境学習会)	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ(特定外来生物)の駆除活動を行った。
	7月1日	「びわ湖の日」清掃活動	滋賀県が主催する「滋賀県ごみの散乱防止条例」の環境美化の日の取組として、事業用地保全のため湖岸のゴミ拾い等を行った。
	【中止】	びわ湖(漁場)をきれいにする運動	—
	8月5日 【中止】	下物ビオトープ生物観察会	—
	8月上旬 【中止】	家棟川環境学習会(上下流交流会)	—
	8月22日 【中止】	あやめ浜祭り	—
	8月28日	家棟川ビオトープ観察会	NP0 法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、野洲市、滋賀県の主催(協力:水資源機構)による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。 地元の小学生や保護者等約50名が参加した。
	9月17日～ 19日	イナズマロックフェス 2022	鳥丸半島芝生広場等において9/17(土)～19(月)の3日間の予定で3年振りに有観客にてイナズマロックフェスが開催された。
	9月28日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前授業を実施した。 彦根市旭森小学校5年生約130名対象 東近江市玉園中学校は中止
	10月8日 11月26日	堆肥配布会(湖南管理所)	湖岸堤の刈草を原料に堆肥を作り、湖南管理所にて配布し、資源のリサイクルで観光保全に努めている。

出典: 文献リスト No. 7-24

表 7.3-2 (7) 至近 5 ヶ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2022 (R4)	10月23日	お魚里帰り環境学習会(新浜ビオトープ)	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。県内外の小中学生及び保護者 22 名が参加した。
	11月5日	下物ビオトープ水抜き観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	11月5日	ヨシ群落・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜(機構事業用地)において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。
	12月18日	家棟川自然観察会(水鳥・ヨシ観察)	滋賀県自然環境研究会、地元 NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。
	10月23日	お魚里帰り環境学習会(新浜ビオトープ)	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。県内外の小中学生及び保護者 22 名が参加した。
	11月5日	下物ビオトープ水抜き観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	11月5日	ヨシ群落・松林保全	『びわ湖の水と地域の環境を守る会』が主催し野洲市あやめ浜(機構事業用地)において、かつて、びわ湖岸に広く群生していたヨシを復活させると共に浜辺の松林の保全活動を行った。
	12月18日	家棟川自然観察会(水鳥・ヨシ観察)	滋賀県自然環境研究会、地元 NPO、野洲市、滋賀県主催で家棟川周辺の自然観察会が行われた。

出典：文献リスト No. 7-24



	
<p>平成30年4月8日 入江干拓マラソン</p>	<p>平成30年6月5日 出前講座・現場見学会</p>
	
<p>平成30年6月17日 アサザ保全</p>	<p>平成30年8月21日 あやめ浜祭り</p>
	
<p>平成30年9月18日 環境学習会 特定外来生物(オオバナミズキンバイ)の駆除活動</p>	<p>平成30年10月9日 出前講座</p>

図 7.3-4(1) イベント風景 (平成30年)

出典：文献リスト No. 7-24



平成 30 年 10 月 28 日  
お魚里帰り大作戦 2018 (新浜ビオトープ)



平成 30 年 11 月 11 日  
ヨシ植え・松林保全



平成 30 年 11 月 18 日  
家棟川自然観察会 (水鳥・ヨシ観察)

図 7.3-4 (2) イベント風景 (平成 30 年)

出典：文献リスト No. 7-24





地域・研究機関・企業・水機構が協働して保全



令和元年 6月8日  
ハマゴウ保全活動

令和元年 6月9日  
自然観察会（太田田んぼ池）



令和元年 6月9日  
アサザ保全活動



令和元年 8月10日  
家棟川環境学習会（上下流交流会）



令和元年 8月17日  
下物ビオトープ観察会



令和元年 8月19日  
あやめ浜まつり

図 7.3-4(3) イベント風景（令和元年）

出典：文献リスト No. 7-24



令和元年 8 月 24 日  
家棟川ビオトープ観察会



令和元年 9 月 6 日～8 日  
NPO 法人学生ボランティアの外来種駆除



令和元年 10 月 1 日  
環境学習会



令和元年 10 月 27 日  
お魚里帰り大作戦（新浜ビオトープ）



令和元年 10 月 30 日  
出前講座



令和元年 11 月 9 日  
ヨシ植え・松林保全

図 7.3-4(4) イベント風景（令和元年）

出典：文献リスト No. 7-24





令和元年 11 月 30 日  
家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）

図 7.3-4(5) イベント風景（令和元年）

出典：文献リスト No. 7-24

	 <p>保全活動の様子</p>
<p>令和2年1月25日 刈草堆肥配布（湖南管理所）</p>	<p>令和2年6月27日 アサザ保全</p>
	
<p>令和2年8月29日 家棟川ビオトープ観察会</p>	<p>令和2年10月14日 環境学習会</p>
	
<p>令和2年10月27日 お魚里帰り大作戦（直営作業）</p>	<p>令和2年11月7日 ヨシ植え・松林保全</p>

図 7.3-4(6) イベント風景（令和2年）

出典：文献リスト No. 7-24

	
<p>令和2年12月1日 環境美化活動</p>	<p>令和2年12月13日 家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）</p>

図 7.3-4(7) イベント風景（令和2年）

出典：文献リスト No. 7-24

	
<p>令和3年2月20日 堆肥配布会</p>	<p>令和3年10月31日 お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）</p>
	
<p>令和3年11月6日 ヨシ群落・松林保全</p>	<p>令和3年12月19日 家棟川自然観察会（水鳥・ヨシ観察）</p>

図 7.3-4(8) イベント風景（令和3年）

出典：文献リスト No. 7-24





令和4年3月5日  
漁師と一緒に野洲の山に木を植えよう



令和4年4月2日  
堆肥配布会（長命寺）



令和4年5月4日  
堆肥配布会（草津市水生植物公園みずの森）



令和4年6月5日  
自然観察会（太田田んぼ池）



令和4年6月11日  
ハマゴウ保全



令和4年6月19日  
アサザ保全

図 7.3-4(9) イベント風景（令和4年）

出典：文献リスト No. 7-24

	
<p>令和4年7月1日 びわ湖の日一斉清掃</p>	<p>令和4年6月28日 オオバナミズキンバイ駆除（環境学習会）</p>
	
<p>令和4年8月28日 家棟川ビオトープ魚の観察会</p>	<p>令和4年9月17日～19日 イナズマロックフェス 2022</p>
	
<p>令和4年10月8日、11月26日 堆肥配布会（湖南管理所）</p>	<p>令和4年10月23日 お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）</p>

図 7.3-4(10) イベント風景（令和4年）

出典：文献リスト No. 7-24





令和4年11月5日  
松林保全・ヨシ植栽運動



令和4年12月18日  
堆肥配布（草津市水生植物公園みずの森）

図 7.3-4(11) イベント風景（令和4年）

出典：文献リスト No. 7-24



### ■出前講座を開催しています。

地域みなさんに身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みについて理解していただくために、県内外の小中学校を対象に出前講座を開催しています。

講座内容は、事前に打ち合わせを行い、講義してほしい内容やこれまで学習した内容に関連する内容に沿ったものなど、リクエストに応えながら楽しく学べるようクイズを交えて学習を行います。他にもろ過実験を体験していただくなど、工夫して開催しています。

今後も地域みなさんとふれあえる出前講座を通じて、琵琶湖の現状や水の大切さについて理解していただき、交流を深めることで、琵琶湖の環境保全に貢献していきます。よりわかりやすく、楽しめる内容となるよう改善に努め、みなさまのところへお伺いしたいと思っております。



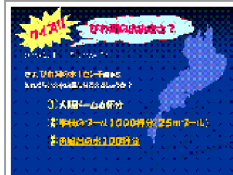
クイズにこたえる子供たち



ろ過実験中

### 講義画面の見本

講義は主に、パワーポイントを使用します。キャラクター、動きのある画面、アニメーション、動画などを使い、子供たちの興味をひきます。講義リクエストにあわせて構成を決めます。



琵琶湖の水について紹介します。クイズなどで参加性を高めます。

画面を拡大



当管理所における環境への取組みを説明します。魚の写真などを多用します。

画面を拡大

### 講座内容

- 琵琶湖の環境や生活の水のゆくえなど
- 琵琶湖の水環境の現状と課題についてなど
- 琵琶湖・淀川の水や環境についてなど
- 滋賀のシンボル琵琶湖について知識を深める、びわこクイズなど

図 7.3-5 ホームページ上で紹介している出前講座の開催

出典：文献リスト No. 7-25

## 7.4 周辺施設や湖の利用状況

### 7.4.1 水に関わる施設への来訪状況

#### (1) 水のめぐみ館「アクア琵琶」(国土交通省、水資源機構)

水のめぐみ館「アクア琵琶」は、国土交通省と水資源機構が瀬田川洗堰近くに、常設の河川管理施設として共同設置したものである。常時は資料館としての機能を主体として、瀬田川洗堰の歴史を始めとして、琵琶湖の水利用の歴史や総合開発、瀬田川の砂防など琵琶湖と淀川水系について、様々な角度から紹介されている。

図 7.4-1 に来館者数の推移を示し、図 7.4-2 に月別の来館者数を示した。1992 年(平成 4 年) 11 月に開館し、1993 年(平成 5 年)から 2010 年(平成 22 年)までは、年間に約 4 万～6 万人の入館者があったが、土・日曜日、祝日を休館日としたことにより 2011 年(平成 23 年)～2013 年(平成 25 年)は、1 万 5 千人程度に減少しているが、2014 年(平成 26 年)以降は、土・日曜日、祝日を開館したことにより、約 3 万 5 千人程度まで増加している。なお、令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染症対策により来館者数が減少している。

季節別では 5 月、8 月を中心として春～夏季に来館者数が多い。

なお、平成 22 年 3 月より当館に係わる管理運営についての助言、提案、評価をすることを目的とする外部評価委員会を設置し、検討を行っているところである。

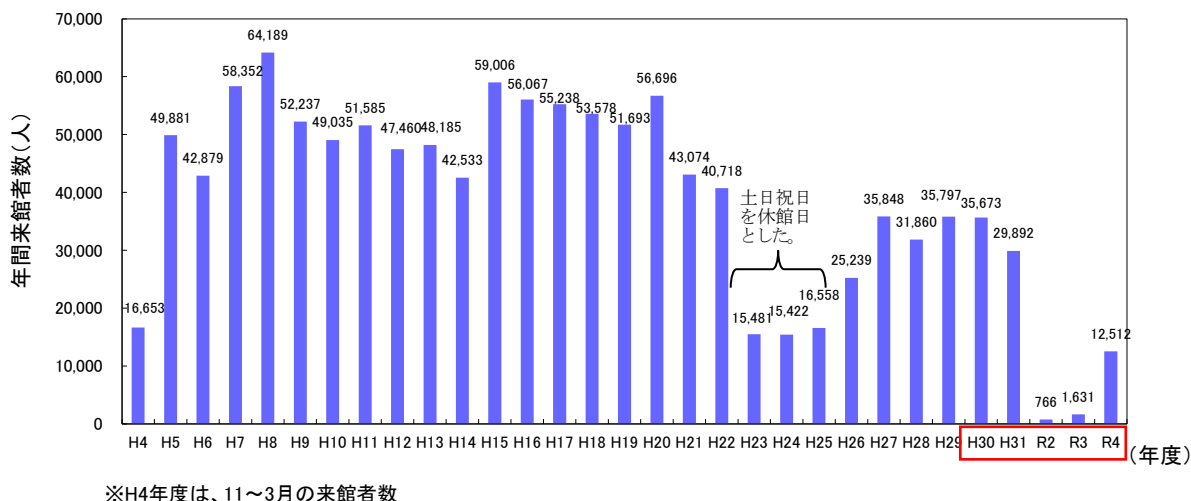


図 7.4-1 アクア琵琶への年間来館者数

出典：文献リスト No. 7-26

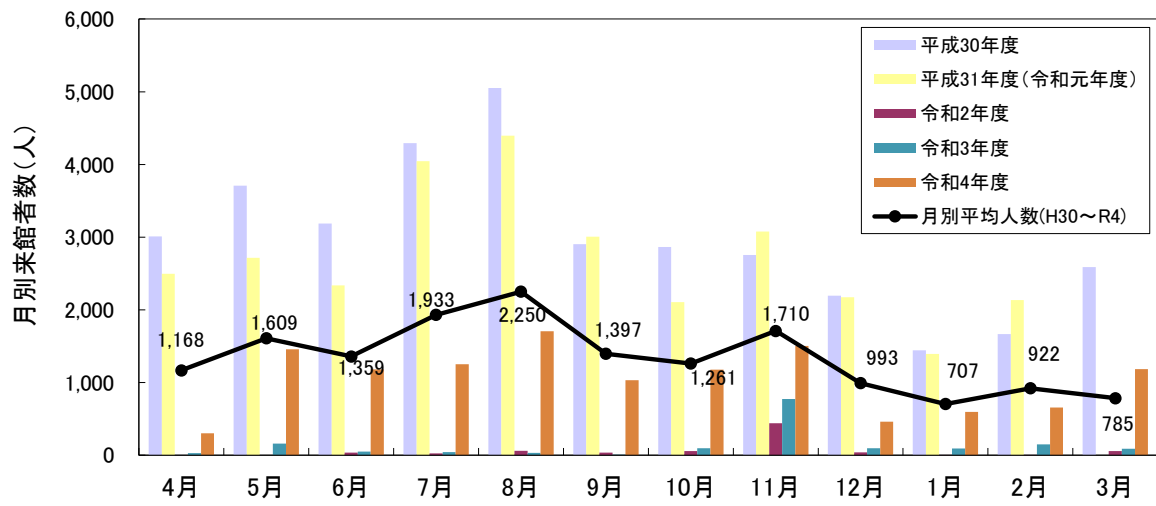


図 7.4-2 アクア琵琶への月別来館者数

出典：文献リスト No. 7-26



図 7.4-3 アクア琵琶



図 7.4-4 アクア琵琶及び周辺施設概要

出典：文献リスト No. 7-27



## (2) 烏丸半島

烏丸半島は琵琶湖開発事業時に諸工事のためのストックヤードなどとして利用した。その後、大規模な跡地整備を行い、滋賀県や草津市等による利活用が図られている。

主な利活用施設は、以下のとおりである。

- ・ 琵琶湖博物館（滋賀県）
- ・ 水生植物公園（草津市）
- ・ UNEP（国連環境計画）国際環境技術センター
- ・ 烏丸記念公園（水資源機構）
- ・ 多目的広場（水資源機構）
- ・ その他駐車場等（滋賀県、草津市）



図 7.4-5 烏丸半島全景図

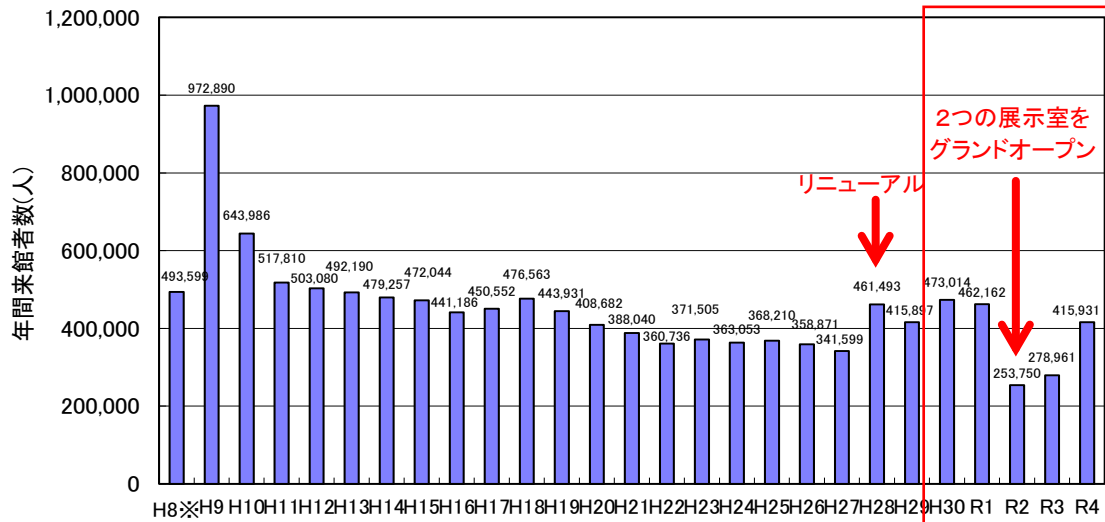
出典：文献リスト No. 7-18

### 1) 琵琶湖博物館（滋賀県）

琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え、今後の望ましいありかたを探るための組織として、10年以上にわたるその準備を終え、1996年（平成8年）4月に設置され、同年10月に一般公開された。

当施設は研究施設・文化施設・生涯学習施設であり、また、交流と情報のセンターとしても機能している。2007年（平成19年）5月8日（火）に開館以来、例年、約40～50万人の来場者があり、2017年（平成29年）8月には来場者数が延べ1,000万人を超えた。2009年（平成21年）以降は来館者がやや減少し40万人を下回る年が続いたが、リニューアルした2016年（平成28年）には増加し、2016年（平成28年）～2019年（令和元年）は40万人を超えている。令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が30万人を下回るまで減少したものの、2022年（令和4年）には再び40万人を超えた。

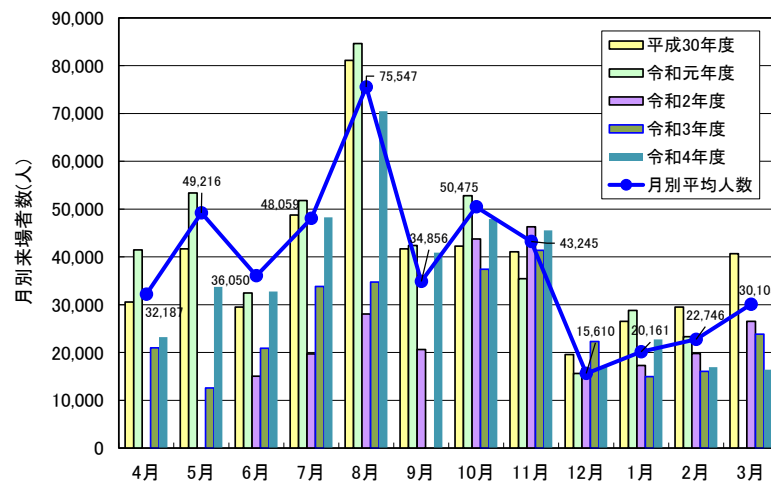
また、水生植物公園みずの森とも徒歩5分の距離と隣接しており、共通券等を発行している。



※平成8年度は、10～3月の来場者数

図 7.4-6 琵琶湖博物館への年間来館者数

出典：文献リスト No. 7-28



※月別平均人数は、1996年(平成8年)11月から2018年(平成30年)3月までの各月平均値とする。

図 7.4-7 琵琶湖博物館への月別来館者数

出典：文献リスト No. 7-28

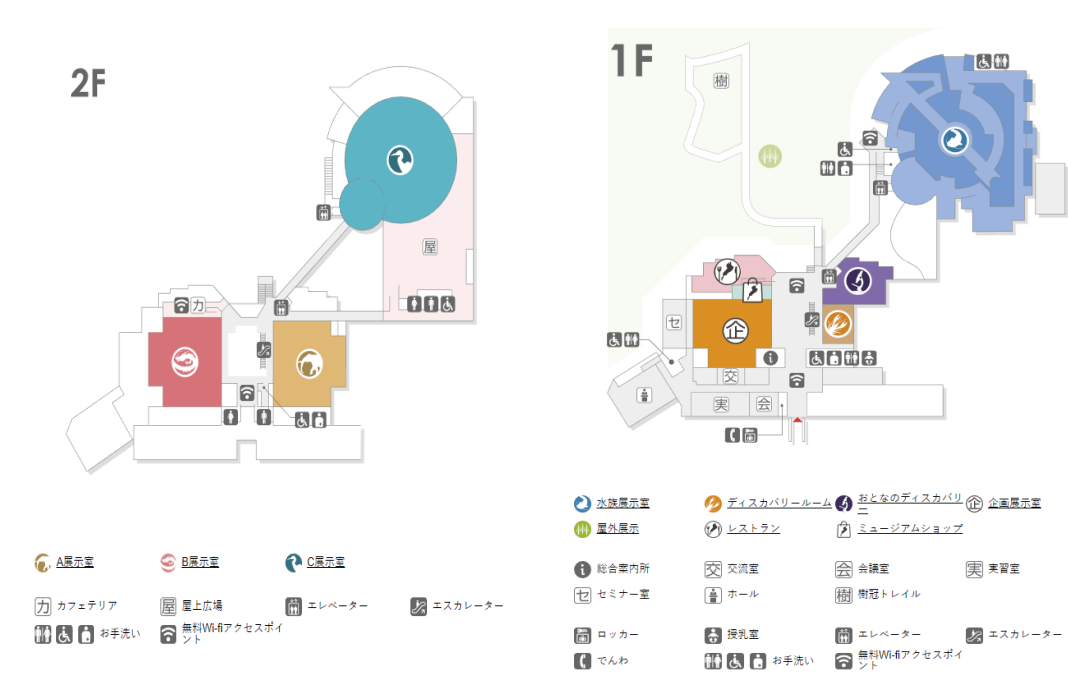


図 7.4-8 琵琶湖博物館の展示案内

□ 施設概要

① 屋内施設

- 1) A 展示室：湖の 400 万年と私たち～変わり続ける琵琶湖～
- 2) B 展示室：湖の 2 万年と私たち～自然と暮らしの歴史～
- 3) C 展示室：湖のいまと私たち～暮らしとつながる自然～
- 4) 水族展示室：湖のいまと私たち：～水の生き物と暮らし～
- 5) ディスカバリールーム：子供と大人と一緒に楽しむ体験と発見の場
- 6) おとなのディスカバリー：大人も楽しめるリアルな知的空間

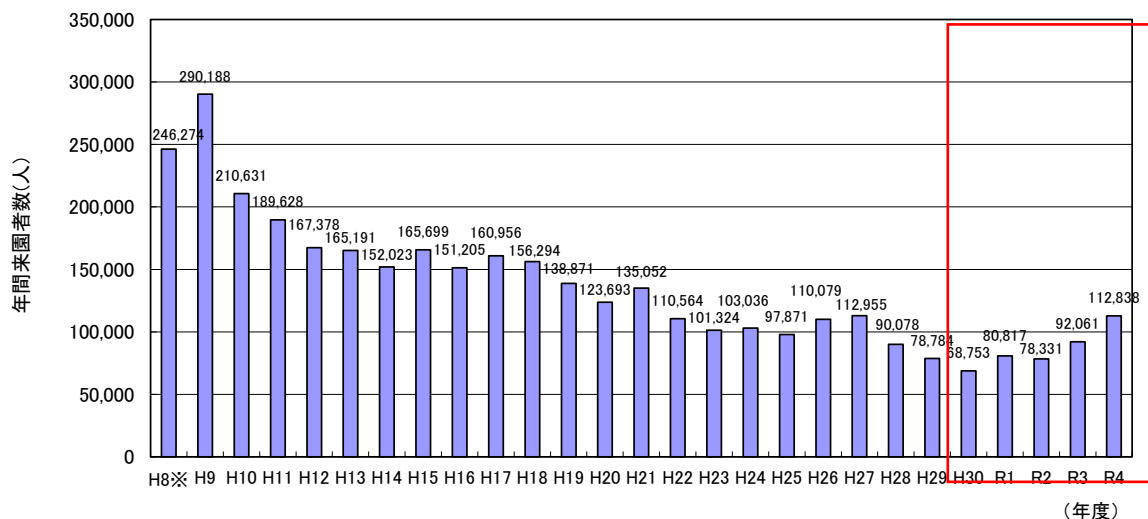
② 屋外施設

- 1) 樹冠トレイル：森をめぐるトレイル（小道）
- 2) 生活実験工房：自然と関わる暮らしを体験
- 3) 縄文弥生の森：縄文、弥生時代の森を再現
- 4) 太古の森：180 万年前の森を再現

出典：文献リスト No. 7-29

## 2) 水生植物公園みずの森（草津市）

1996年(平成8年)7月開業の三方を豊かな琵琶湖の自然に囲まれた心安らぐ植物園で、見どころは四季を彩る草花が美しい「丘の上の花園」や、水生植物と草花が織りなすハーモニーが幻想的な「花影の池」等がある。なかでもスイレンのコレクションは日本最多で、他では見られない水生植物が観察できる。また、7月下旬にはハス祭りが行われる。2006年度(平成18年度)までは、例年15万人前後の来園者数となっていたが、2018年度(平成30年度)まで減少傾向であった。2018年度(平成30年度)以降は微増し、2022年度(令和4年度)には、約11万人となっている。



※1996年(平成8年)度は、7～3月の来園者数

図 7.4-9 水生植物公園みずの森への年間来園者数

出典：文献リスト No. 7-30



図 7.4-10 水生植物公園みずの森施設案内

出典：文献リスト No. 7-31

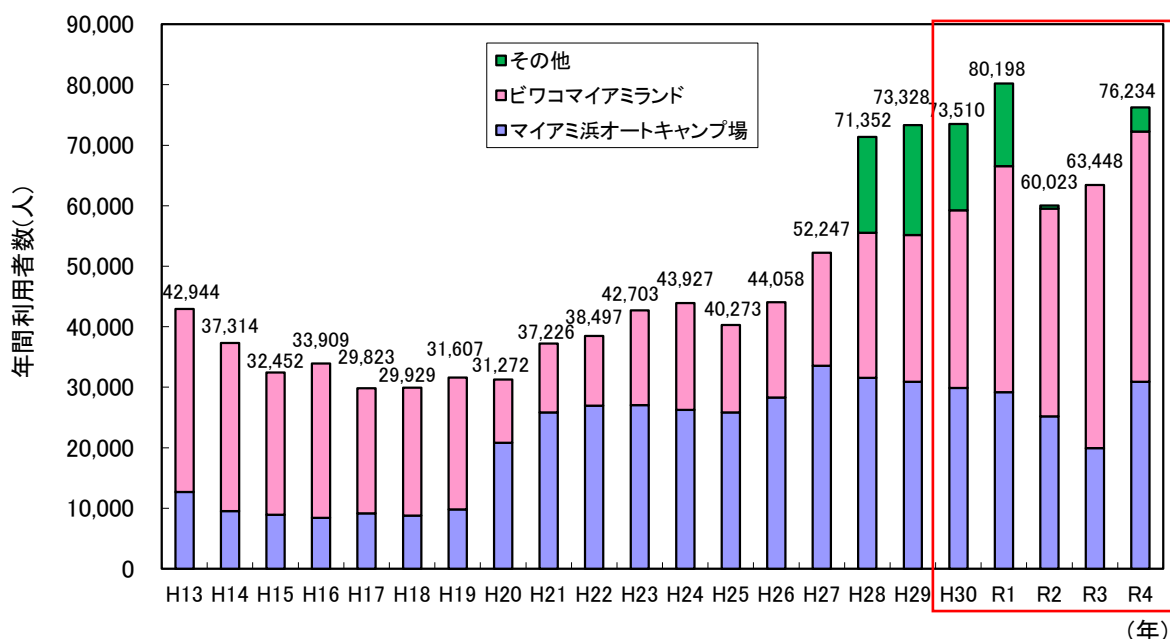
□ 主要施設

- ・観賞温室(1,159.7 m<sup>2</sup>)：熱帯スイレンを中心に、熱帯の水生植物や仏教に関する植物を展示している。
- ・常設展示室(182.51 m<sup>2</sup>)：ハスを始め水生植物を科学的、文化的な面から自然、文化、花、科学、情報に分類し、遊びながら知ることができる展示を行っている。
- ・企画展示室(118.73 m<sup>2</sup>)：植物等の展示を開催するコーナーとして設けている。

(3) ビワコマイアミランド（第三セクター）

1994年(平成6年)4月にオープンしたビワコマイアミランドは、沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の環境にある。この恵まれた大自然の中で、キャンプやテニス、ローンフィールド、バードウォッチング等を楽しむことができ、また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できる施設である。また、平成20年度にはビーチバレー、平成21年度にはマレットゴルフ施設の利用が始まった。

利用者数は、平成13年度から平成17年度にかけて減少したが、その後増加している。平成28年度より集計を始めた各種イベント等の利用者も含めると、令和4年度は約7万6千人の利用者数となっている。また、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止等で、その他の利用者数が減少している。



- ※ 上記利用者数値は、マイアミ浜オートキャンプ場とマイアミランド利用者数の合計値
- ※ ビワコマイアミランド利用者数には、自由広場・テニスコート・パターゴルフ場、ビーチバレー、マレットゴルフの利用者を含む
- ※ その他：アヤメ園来場者、ウォーキング等、各種イベント等であり、平成28年度より集計

図 7.4-11 ビワコマイアミランド等の年間利用者数

出典：文献リスト No. 7-32



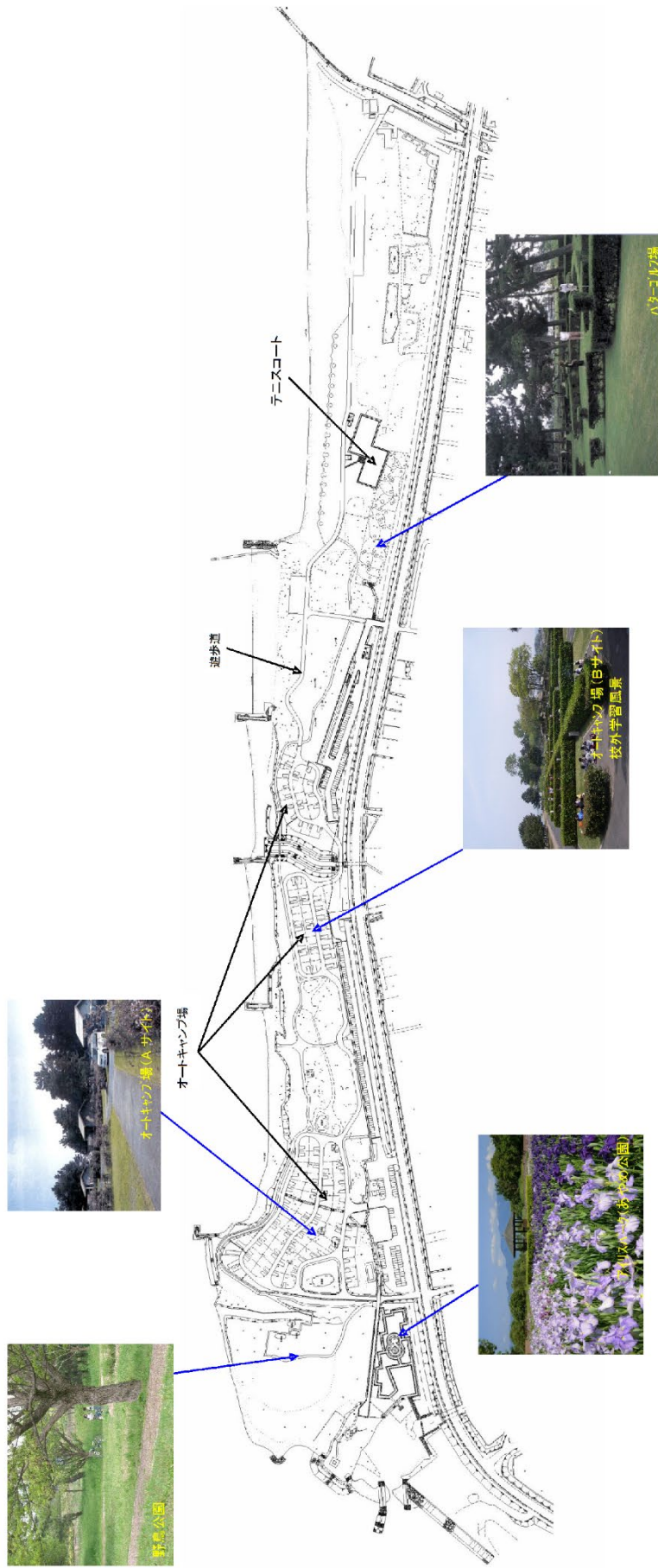


図 7.4-12 ビワコマイアミランドの施設配置図





図 7.4-13 ビワコマイアミランドの施設利用状況

#### (4) 湖岸や前浜の利活用

琵琶湖開発事業により、湖岸堤・管理用道路を整備するとともに、滋賀県では湖岸周辺にあった道路も改装や付け替えなどの整備を行っている。これらにより琵琶湖の湖辺を一周できる道路網が形成され、産業や暮らし、観光に活用されているほか、サイクリング、ジョギング等の余暇活動にも利用されている。

また、湖岸堤の設置にあたっては、堤防本体と汀線（陸と湖との境界）との間に前浜を設け、琵琶湖に生きる多くの生きものたちにとって大切なエリアとして、また、水辺を最大限に活用した親水空間として利活用されている。都市部（京都、大阪、神戸や名古屋）から数時間で行くことができることもあって、一年を通じて多くの方が訪れ、キャンプやバーベキュー、テニス、パターゴルフ、ウォータースポーツ、魚釣りといったレジャーや散策、バードウォッチングといった多種多様な趣味や余暇活動に利用されている。また、市民や NPO が主体となった美化活動等が実施されている。

滋賀県では、自転車政策「ビワイチ」の推進を図る中で、琵琶湖一周ができる自転車道（約 193km）の整備に着手しており、年間利用者 15 万人を目標（現在 9.5 万人：10 ヶ年計画）に地域振興が期待されている。湖岸堤の管理用通路と車道の干渉帯である植樹帯の一部を高速自転車通行空間（車道混在）に創設するもので、滋賀県により 2017 年度（平成 29 年度）から整備が開始されている。令和 4 年のサイクリング体験者数は 98,000 人と推定されている。



図 7.4-14 湖岸堤・管理用道路の利用状況





宮ヶ浜水泳場



真野浜水泳場



近江八幡市



彦根市 湖岸緑地

※公益社団法人びわこビジターズビューローHP、湖北野鳥センター、滋賀県営都市公園湖岸緑地

図 7.4-15 前浜の活用事例



昆虫観察会（令和4年8月28日）



ゴミ拾い（令和4年6月2日）

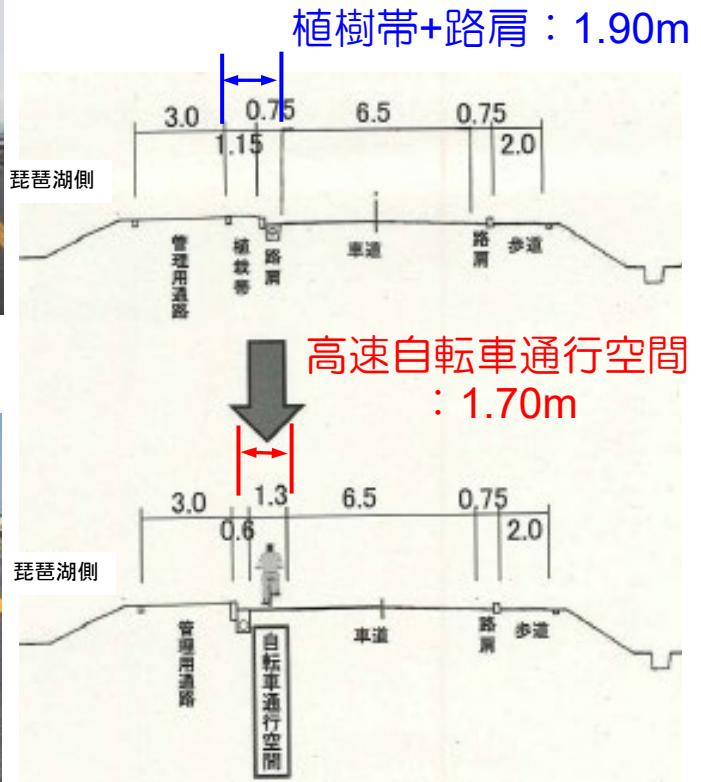
※滋賀県営都市公園湖岸緑地、日本財団 海と日本 in 滋賀県

図 7.4-16 琵琶湖周辺の活動事例



BIWAICHI  
ビワイチ

© 2016 滋賀プラス・サイクル推進協議会



琵琶湖一周ができる自転車道 (約 193km)  
 利用者 15 万人/年を目標 (令和 4 年度現在 9.8 万人 ※文献リスト No. 7-33)  
 平成 29 年度整備開始

図 7.4-17 湖岸堤を利用した「ビワイチ」構想

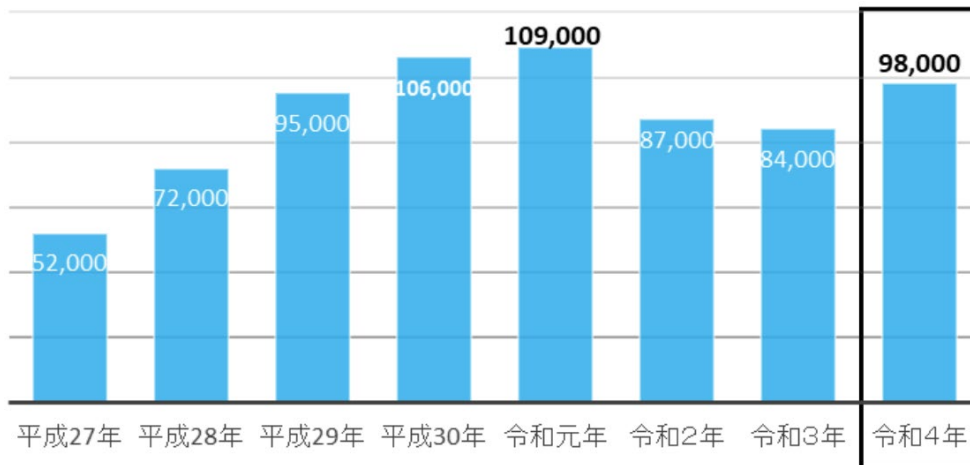


図 7.4-18 琵琶湖一周サイクリング体験者数 (推定)

出典：文献リスト No. 7-33



## 7.4.2 琵琶湖開発 30 周年記念イベント

### (1) 琵琶湖開発 30 周年記念イベント

30 周年の節目を記念して、琵琶湖、淀川に係る施設の役割や環境について見つめ直し、今後の流域における治水や取組について考えていくことを目的に「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会を開催した。メッセージは琵琶湖に関する「治水」「利水」「環境」をテーマに募集し、総数 626 通もの応募があった。

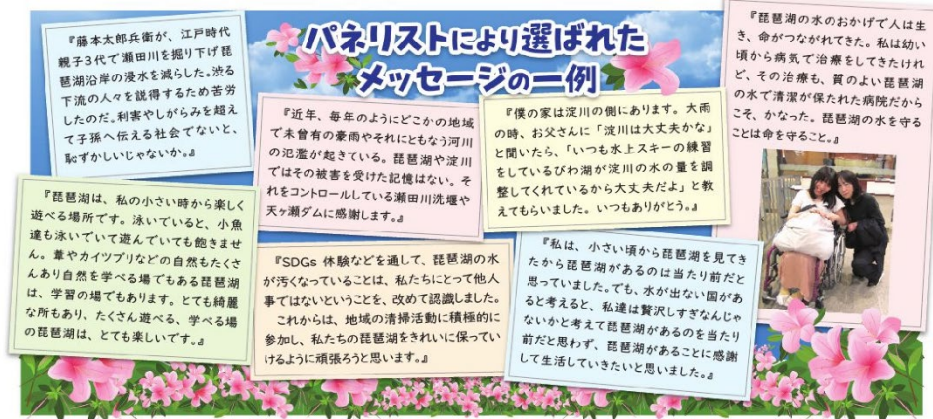


図 7.4-19 「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会（令和 5 年 1 月 28 日）

### (2) ダムカード

琵琶湖開発施設は令和 4 年で管理 30 周年を迎えた。この節目を迎えるにあたり、琵琶湖開発施設（湖岸堤、排水機場、瀬田川洗堰バイパス水路等）の目的などを記載した記念カードを作成した。

令和 4 年 5 月 16 日より独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所、湖北、湖西、湖南管理所及び水のめぐみ館アクア琵琶で配布している。



図 7.4-20 琵琶湖開発施設管理開始 30 周年記念カード

### 7.4.3 周辺施設の利用状況

#### (1) 滋賀県への来訪者

滋賀県が2010年（平成22年）に観光地60地点、2000年（平成12年）及び2005年（平成17年）に観光地62地点、2016年（平成28年）は10地点、2021年（令和3年）は30地点を対象に、アンケートを実施した。なお、観光客を対象に調査時期及び回答数を限定し実施したアンケート調査のため、利用人数の変化は把握できない。

平成28年では滋賀県、京都府からの来訪者の割合が減少し、他府県からの来訪者の割合が増加していたが、令和3年は滋賀県、京都府からの来訪者の割合が再び増加している。

来訪者の年齢は40歳代～50歳代が多くなっている。また、旅行目的では、「自然の風景を見る」、「神社仏閣・旧跡」、「街並・施設を見る」、「琵琶湖」の比率が20%以上と高くなっている。

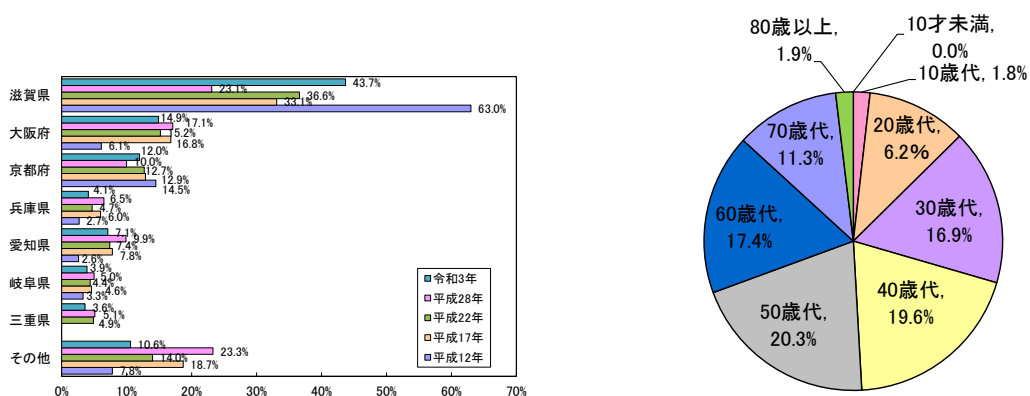


図 7.4-21 滋賀県に訪れた方の割合（左：住所、右：年齢(令和3年のみ)）

出典：文献リスト No. 7-35、7-37

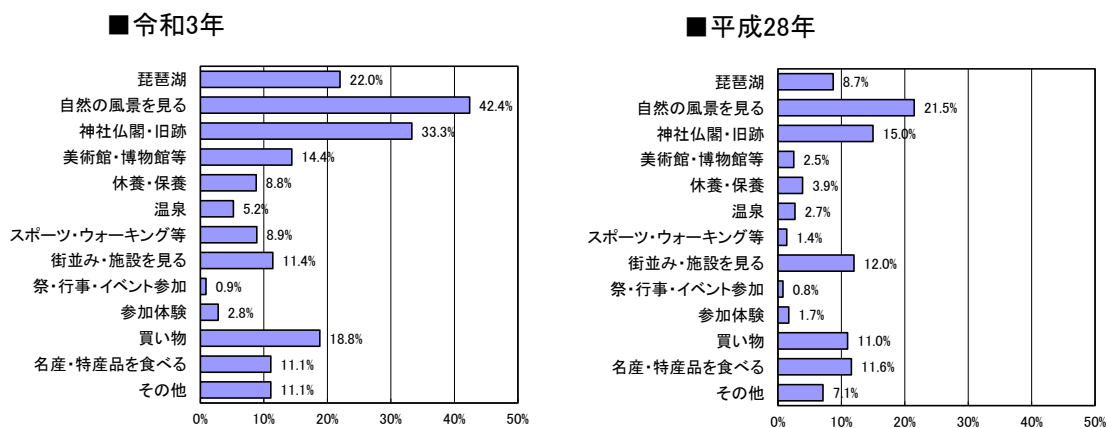


図 7.4-22 滋賀県に訪れた方の旅行目的に関する調査  
(平成28年度・令和3年度調査)

出典：文献リスト No. 7-36、7-37

## 7.5 まとめ（案）

- ・琵琶湖周辺には、様々な観光資源に加えて、豊かな自然環境を用いた教育施設が多数存在しており、地域住民等に利用されていることに加えて、他府県からの利用者も多い。
- ・学校関係・地域住民・市民団体等、地域とのコミュニケーションを様々な形で展開し、地域との連携協力を努めている。

### <今後の対応>

- ・今後も関係機関や地域との連携を深めていく。
- ・琵琶湖は淀川流域の貴重な水源であり、環境保全の重要性などについて上下流交流を促進し、活動を進めていく。



## 7.6 文献リスト

琵琶湖の周辺地域動態に係わるとりまとめのため、以下の資料を収集整理した。

表 7.6-1(1) 「7. 周辺地域動態」に使用した資料リスト

No.	文献・資料名	発行者	発行年月	文献の引用頁
7-1	令和3年全国都道府県市区町村別面積調	国土交通省国土地理院 HP		HP
7-2	琵琶湖周辺地域環境利用ガイド	滋賀県	1985年(昭和60年)	—
7-3	国勢調査報告	総務省統計局	—	HP
7-4	滋賀県推計人口年報	滋賀県統計課	—	HP
7-5	滋賀県統計書	滋賀県総合政策部統計課	2021年度(令和3年度)	HP
7-6	日本の長期統計系列	総務省統計局 HP	—	HP
7-7	琵琶湖博物館 研究調査報告書6号	滋賀県	1998年(平成10年)	—
7-8	国土交通省国土数値情報 ダウンロードサービス 土地利用細分メッシュデータ	国土交通省国土政策局 国土整備課	令和3年	HP
7-9	しが統計ハンドブック(2023年版)	滋賀県総合政策部統計課	2023年(令和5年)3月	P41
7-10	滋賀県観光情報	公益社団法人びわこビズターズビューローHP	2018年(平成30年)6月	HP
7-11	滋賀県地図	滋賀県 HP	2017年(平成29年) 9月更新)	HP
7-12	令和3年滋賀県観光入込客統計調査書	滋賀県商工観光労働部 観光交流局	—	HP
7-13	令和3年(2021年)京都府観光入込客調査報告書	京都府商工労働観光部	—	HP
7-14	大阪府観光統計調査報告書平成22年版	大阪府府民文化部都市魅力創造局国際交流・観光課	2012年(平成24年)1月	HP
7-15	令和3年奈良県観光客動態調査報告書	奈良県観光局ならの観光力向上課	—	HP
7-16	令和4年刊三重県統計書	三重県政策企画部統計課	—	HP
7-17	滋賀県観光関連資料	滋賀県広報課 HP	2012年(平成24年)3月	HP

表 7.6-1(2) 「7.周辺地域動態」に使用した資料リスト

No.	文献・資料名	発行者	発行年月	文献の引用頁
7-18	琵琶湖周辺の観光名所等	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 HP	—	HP
7-19	琵琶湖水環境図説	建設省近畿地方建設局 琵琶湖工事事務所 (現 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所)	—	—
7-20	琵琶湖総合保全整備計画 マザーレイク 21 計画 (第 2 期改定版)	滋賀県	2011 年(平成 23 年)10 月	P1
7-21	琵琶湖総合保全整備計画 (マザーレイク 21 計画) <第 2 期改定版>ふりかえり報告書	滋賀県	2021 年(令和 3 年)3 月	—
7-22	資料 3 「琵琶湖保全再生計画」とマザーレイク 21 計画の関係	滋賀県	—	—
7-23	2030 年の琵琶湖と琵琶湖に根ざす暮らしに向けた 13 のゴール	Mother Lake Goals HP	2021 年(令和 3 年) ～2024 年(令和 5 年)	HP
7-24	琵琶湖総管のできごと	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2018 年度(平成 30 年度) ～2022 年度(令和 4 年度)	
7-25	(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所 HP	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	—	HP
7-26	水のめぐみ館アクア琵琶提供資料	水のめぐみ館アクア琵琶	—	—
7-27	水のめぐみ館アクア琵琶 HP	水のめぐみ館アクア琵琶	—	HP
7-28	滋賀県立琵琶湖博物館提供資料	滋賀県立琵琶湖博物館	—	—
7-29	滋賀県立琵琶湖博物館 HP	滋賀県立琵琶湖博物館	2023 年(令和 5 年)7 月	HP
7-30	草津市立水生植物公園みずの森提供資料	草津市立水生植物公園 みずの森	—	—
7-31	草津市立水生植物公園みずの森 HP	草津市立水生植物公園 みずの森	—	HP
7-32	野洲市湖岸開発株式会社提供資料	野洲市湖岸開発株式会社	—	—
7-33	琵琶湖一周サイクリング体験者数(推計値)	滋賀県	2023 年(令和 5 年)4 月	—
7-34	近江鉄道株式会社 HP	近江鉄道株式会社	—	HP
7-35	平成 22 年滋賀県観光動態調査結果 概要版 滋	滋賀県商工観光労働部 観光交流局	2011 年(平成 23 年)3 月	P1～2
7-36	平成 29 年版 滋賀県の商工業	滋賀県商工政策課	2017 年(平成 29 年)9 月	
7-37	令和 4 年版 滋賀県の商工業	滋賀県商工政策課	2023 年(令和 5 年)3 月	